

MASAAKI

Breeze from New York 2001



NODA

野
田
正
明

M A S A A K I
Breeze from New York 2001
N O D A

ニ
ュ
ー
ヨ
ー
ク
の
息
吹
き
2
0
0
1



Photograph by Tomohiko Naruse

野田正明——無限に通ずる闘争^{アゴン}

ロバート・スティーヴン・ビアンキ

ブロートン・インターナショナル芸術学芸問題ディレクター

野田正明の作品全体のスタイル上の発展をみると、一つ一つの段階が過去に成し遂げられた美学的成果に根差しており、それを次への実験に巧みに変化させる形をとっている。それゆえ、野田の作品は他の重要作家に比べると面白い。作家は、普通、さまざまな作品の中で自分のスタイルを調整し、新しい表現を形成していくけれども、全般的に共通の美学的主張や私的な美学で統一されているからである。これに対し、野田はその作家活動を通じ、一貫して無限の空間とその中で動きという概念に魅了されてきた。初期のコンポジションは、虚空に浮かぶ二次元的で幾何学的な形に依存するものであったが、これを破壊し、静的で幾何学的完成度を持つ表現から空間をリズムカルに動き回る力学的フォルム、人間味をもった官能的な表現へと変貌させていった。彼の創るものは、内的に関連しあった大宇宙の中の小宇宙である。

野田正明は、1949年広島県に生れ、大阪芸術大学を卒業した。最初手掛けたのは絵画だが、最終的にはプリントに移り、1972年から5年間はシルクスクリーンに集中した。初期作品は、フォルムと色彩の双方で高度な技能を要する精度の高さを見せ、同時代のオブ・アート運動に負う数学的正確さを特徴とし、ヴィクター・ヴァサレリの作品にも比べられる。その色彩は純粋色に限定され、冷たく、不透明、平面的、頭腦的などというふうには言われたが、これは、1980年代に入って野田がこの小宇宙主義ともいうべきものを組み替えて「紙の彫刻」に再導入する時に大いに役立つことになる。彼の幾何学的なフォルムは円と三角に依っている。しかし、同時に、計算されたフォルムを主体とする色彩の不透明性を活用したこれらの作品は、彼が、マックス・ピルの作品を再解釈していたことを示唆する。そこでは、作者は医師のように

客観的だが、いくつかの作品は後の展開の先駆けとなっている。こうした初期の時代ですら、多彩色への関心を示しているからである。野田は鋼質な青と柔らかい深紅色に内在する微妙な世界を模索し、角張ったハードエッジのフォルムを肉眼には白く見える軽さで和らげた。そのようにハイライトされた部分は、幾何学的な形の硬さを強めることなく、反射光を示唆する。よく見ると、その部分は空間的というより装飾的であって、シルクスクリーン方法そのものの副産物と見なされるかもしれない。しかし、ハイライトされた部分の持つ潜在的な力を最大限に利用し、さまざまな可能性を模索し続けることにより、直線的フォルムのハイライトが後の作品ではスタイル上の一側面となる。

1977年、大阪芸術大学を卒業して5年目に、野田はニューヨーク市に到着する。芸術家として身をたてるためであったが、以来その面での成功は著しい。今日、野田は版画家、画家、コラージュ作家、彫刻家として世界的に認められている。

ニューヨークのアート・ステューデントズ・リーグに入学、芸術家志望は独自に生活費を稼ぐべしとする同校の精神に基づき、生活のためにあらゆる仕事をした。そして、チャイナタウンの危険な区域に借りたロフトでボヘミアンな生活を送り、間もなく妻と小さな息子を日本から迎えながらも、リーグでの勉学には三年間たゆむことなく精を出した。アメリカにおける最初の連作「次元シリーズ」の中でももっとも初期の作品は、直線的なフォルムが構図の焦点となっているという点で、彼の日本でのグラフィックに依存していた。しかし、野田は1972年以来扱ってきた曲線を「次元シリーズ」に取り入れた。この直線と曲線の取り合わせは、いまや空間への



EXPRESSION-80-F
Silk Screen
1977
51×51cm
20×20"

動きを示唆するモチーフに結び付けられていると同時に日本で制作したシルクスクリーンの硬い不透明性を放棄し、それに代わって、三次元を示唆する軽快な透明性を好むようになる。三次元性と空間への動きは、より絵画的な色調と重なり、アメリカでの初期作品に、それ以前の厳しく頭脳的な日本でのシルクスクリーンには全く見られなかった肉感を吹き込む。

従って、1979年から1980年は野田にとっての転換期となった。依然、過去のシルクスクリーンに作品の基盤を置きながら、硬さを特徴とするスタイルからより叙情的で、エネルギー的なアプローチに変わっていった。「次元シリーズ」には極めて明確な発展が見て取れる。このシリーズ初期の作品は、野田の日本時代のグラフィックに負う部分があるが、科学的、数学的フォルムから徐々に離れ、さらに自然で、よりヒューマニスティックともいべき官能的なフォルムを内包するようになる。それはより大きな空間的な深さをももたらし、色彩の透明性を中心とする構成が効果をあげるようになる。モチーフは依然三角に依存しながらも、それを破壊し、色彩の違いをより明らかにできる多彩色の透明性を強調するようになった。

野田が二次元的な表面と三次元的な彫刻との関係を熱心に模索し始めのは、この転換期であった。この二者合一シナルテシスに対する関心が視覚的表現を得たのが、1980年代初めにニューヨークのセントラル・パークで公開した「空中彫刻」である。色彩を二つまたは三つに限ったこの作品で、野田は三次元的な要素を二次元的な曲線のフォルムに置きかえ、夏の明るい空の色が二次元的な空間環境の代りの役をはたし、そよ風と陽光の変化とが流動的で優雅な作品を作りだした。野田は「次元シリーズ」で示唆していたものを、三次元の分野で達成したのである。

引き続き、野田は「空中彫刻」で達成した進展を、白黒の紙で作った小さな彫刻に取り入れ始めた。野田は「紙の彫刻」を完成した芸術品というより、むしろモデルと見なした。それは、高さ3メートル以上のスケールの金属で作ることを想

定し、半恒久的な彫刻の手掛かりとしての役割をはたした。「紙の彫刻」の形式と材料とは、野田に創造力と衝動とを發揮させることを可能にし、グラフィック構成における平面的表面を三次元的空間に作り替えることを可能にした。そこでは、白と黒の刺激的な対極性が、野田の空間環境の美学に必要な流動空間としての相互作用を作りだす。

ここで、野田の作品がなぜ伝統と革新の弁証法であるのかを考えてみよう。「次元シリーズ」は「空中彫刻」への道を開き、「空中彫刻」は「紙の彫刻」の触媒となり、「紙の彫刻」は、その彩色効果で、野田が学生時代に作った初期作品に負っている。

2000年5月19日に広島の新市町で公開される「飛翔Ⅱ 時空を越えて」の素晴らしさは、そのように考えてみて初めて理解できるが、その根源は野田がその二次元的な作品で考えていた革新にも依存しているのである。

1983年から1985年にかけて、野田は力学的なエネルギーで見る者を圧倒することを意図する大型の平面作品を手掛けた。野田はこの目標を達成すべく再び自分の伝統に立ち返り、「紙の彫刻」の単色主義を二次元と三次元の二者合一の非色彩的な作品へと変形した。これらは白と黒とから成る交響曲であって、そこで野田は、炭、コンテ、鉛筆、パステル、アクリルを使うことで空間のフォルムを作っている。エネルギーに満ちたこれらの作品は、野田が自ら言う解放された空間を定義するものとなり、最終的には日本時代のグラフィックの幾何学的特性と袂を分かち、自ら「ターナーの構築的ダイナミズム」と呼ぶものに移っていった。ターナーとは、もちろん英国画家マロード・ウィリアム・ターナーのことで、光と色彩とがふるえるような霞の中に溶け合ってしまうその後期作品を指している。

1985年は野田にとって新たな分水嶺となった。この年作品にいくつかの試みを導入することにより、そうした非彩色構成を変えてしまったのだ。これら実験のなかでも特に目立つのは、透明な色彩で作られた渦のイメージで、以後の



静穩の残光
AFTERGROW OF SERENITY
Collage
1993

作品を形成していく。しばしば飛鳥にたとえられるこれら渦は作品における空間関係を規定するものであって、力強い動きの感覚であふれている。固定したフォルムは今や色彩の渦に変形され、とらえどころのない形に姿を隠すように見える。しかし、二次元と三次元との二者合一を図る野田は、この時期にもう一つの側面を加える。彫刻が三次元物体として、360度どの方向にも空間に向かっていること、またいかなる枠組みにも規制されないことに気づいた野田は、二次元作品の枠組みを破り、渦を作品の中からはみ出させ、作品の限界線と考えられているものを越えさせるようになる。そうして生まれる空間的広がり、二次元的表面に限定された衝突に限られることはなく、物理的な環境を抱合する形で拡張されていくことで、無限の空間という錯覚をもたせる作品を作りだしたのである。

チャイナタウンに5年間住んだ野田は、妻と子供二人とともにソーホーのロフトに引っ越す。それは家族を住まわせながらスタジオとしても使える広いものだった。その頃までには彼のプリント技術は極めて高度なものとなっており、その結果、1980年代の作品に支配的なものとなる、洗練された多色シルクスクリーンの最初の連作にとりかかる。これらのシルクスクリーンを見る人は、その労働集約性を見逃すべきではない。その彩色手続は、最低70回、普通は100回以上のプロセスが必要とされるからである。この繰り返し作業は野田の透明色彩の操作を可能にし限りない空間の錯覚を作りだす。これらグラフィックのモチーフは空間における動きの模索であるが、それは、ある批評家が言ったように、万華鏡のように変化に富み、迷宮のように入り組んだ力学的な渦、透き通ったペールや力学的な波形を色彩の上で抽象化することで作られている。また、別の批評家は、鳥あるいは羽毛に被われた羽根に似ているとも言った。そうした現実のものへの類似はともかく、野田の抽象的な渦巻は、心の中のハイウェイとも言えるものであって、それを見る人は、芸術的に操作され限りない領域を持つ空間環境に出入りできる。その錯覚

は渦巻が画面をはみ出すことでさらに強調されていく。

1990年以来、野田は、シルクスクリーン、水彩、ミックスト・メディアを使って独特の作品を創ってきた。その主体となっているのは、柔らかな多彩色のペール、あるいはエネルギーに満ちた色彩の力学的な波形である。特に、シルクスクリーンでは、力学的な波形を紙の境界線以外に延びること許容し、曖昧な境界線を用いることによって「^{ラ・ロフ・デ・キヤドル}枠組みの法則」を破ることができた。

これら最新の二次元の作品は、1988年に始まった金属彫刻の最初のシリーズに見られるけれども、特に1993年になってから集中的に見られるフォルムと意図とを持っている。真鍮、コールドテン鋼またはステンレススティールで作られたこれら彫刻は、そのまま据え置かれるか、台座に取り付けられるか、あるいは、初期の「空中彫刻」の効果を思わせる形で、天井から吊るされる。二種類のスティールで作った作品は、ふつう単色だが、真鍮の作品にはある程度の多彩色効果が達成されている。野田の平面作品ならびに彫刻の最新作の展示会が好評を得たのは、両者を並べて展示することで、野田が二者合一をいかに巧みに達成するかを明らかにしたせいである。

そこで、二次元と三次元作品の合流について触れておく必要がある。野田は、二次元の作品では透明な色彩を使いこなし、三次元の作品では、それを現実の空間に置くことにより、無限の空間を作りだす。それらの空間を動くエネルギーは、平面的作品では、半透明なペールまたは色彩の力学的な動きによって、また、三次元作品では、鳥または羽根のついたフォルムと見られる渦巻によって作られる。しかしこれら作品はどちらも抽象的な表現であり、多くの解釈が可能となる。野田の作品のモチーフ上の特性を定義しようとする際、半透明のペールまたは鳥に似たフォルムは、その無限の空間環境から切り離すことができない。批評家はすべて、しばしば激しい動きに絡まれたこれらの渦巻は見えない拘束から逃れようとする努力を示すものであり、それは「枠組みの法則」が



空中彫刻
SKY SCULPTURE
1982

破られている作品では特に著しいと指摘する。

この闘いの性質の鍵となるのは、野田の作品の中でもあまり知られていない1980年代のコラージュであろう。野田は、1987年、全く偶然に、いろんな雑誌から破り取ったイメージの破片からタブローを作ることでコラージュの実験を始めた。これらのコラージュは、その具象性の故に野田の主体となっている抽象作品から離れたように見えるかもしれないが、そこでも、異空間への侵入を認めることにより、二次元様式の四角の周辺枠を故意に無視することができたという意味で重要である。

この「侵入」は野田が動きのダイナミズムを捉えるもう一つの表れである。これらコラージュのイメージは、しばしば有名な西欧画の複製で、鳥を絵の一部として持ち、具象的であるにもかかわらず渦巻く激しい動きを示す形で配置されている。ある批評家は、これらのイメージを、すべてを地上の不安や恐怖、さらには汚辱から逃れて天界の清浄さに到達する願望のメタファーとする、神秘主義に対する浪漫主義的な見方に結び付けたが、これは正しい。この解釈は1997年に完成した野田のスタンドグラス作品「去来、流転、天空昇」にも当てはまる。これは、阿弥陀浄土を地上の形で表す平等院を体験すべく京都の京阪宇治駅に降り立つ人たちのために作られたものである。人間精神は悟りを求めるという仏教の考えに沿って、野田の渦巻はスタンドグラスに当たる陽光と一体になって神聖さへの精神的な動きを強調する。従って、批評家の一人一人が、野田の作品に対して、激しい渦巻を、より高度の目標を求め、その過程で多大のエネルギーを発する力に結び付けたのも、うなずける。

これまでの野田の作品で、この基本的なモチーフを模索する最高の作品は「飛翔Ⅱ 時空を越えて」である。これは野田が美術を学んだ大阪で彼の指揮のもとに作られたステンレススチールの作品であって、彼が生まれた広島の新市町で2000年5月19日に除幕される。この作品では、半透明なベールまたは力学的な波形は、初期の白黒作品「紙の彫刻」に

内在した単色性を維持しながらも、ステンレススチールの抽象的なフォルムに転換されている。

偉大な芸術作品が「偉大」と言われるゆえんは、そこに内在する多くの価値観が、伝統や文化や言語などによって互いに隔てられている人たちに、それぞれ話し掛けることができるという事実にある。その意味でこの彫刻は偉大な芸術作品である。人によっては、この作品を西欧的な視点から見て、超越的自然という浪漫主義時代の定義を思い出し、伝統との闘いをそこに見るだろう。事実、野田が取り入れた金属表面は、場合によっては暗く見えるけれども、不透明となることはない。従って、この彫刻を地上の不安や恐怖から逃れてその向こうにある天界の純粹さに昇華しようとする、世界的な願望を表すものとも見ることもできる。そのような渦を通過してのみ、超越的な世界に到着することができる。こうしてみると、この彫刻はレオナルド・ダ・ヴィンチの渦巻の絵を精神的に引き継ぐものといえる。他方、野田をアメリカで仕事をする日本人芸術家と見なす人は、この彫刻における羽毛のような、鳥の形をしたフォルムを純粹に日本的な視点から見ることになるだろう。

野田の抽象的なフォルムはその純粹性ゆえに正確な定義をすることができないが、彼の作りだすフォルムが、叙事詩的な大きさを持つ闘争アゴンの中に捉えられた自然の力を具現することは疑いを入れない。これを、現実と想像、優しさとエネルギー、あるいは、崇高さとダイナミズムの闘いと見なすにせよ、この彫刻が宇宙を永遠にとどまることのない形として捉えていることは確かだろう。それは自然力による変貌の力強いイメージだ。激しい闘いから生まれでてこようとしている何か壮大なものを表すようだが、目に見えるのはその胎動のみである。この彫刻を見ることは心が高まる美学的体験である。即座に視覚に訴え、メッセージは普遍的である。

(訳・佐藤紘彰)

MASAAKI NODA — AGON THROUGH THE INFINITE

Dr. Robert Steven Bianchi

Director of Academic and Curatorial Affairs

Broughton International Inc.

Each successive phase in the stylistic development of the oeuvre of Masaaki Noda is rooted in his past aesthetic accomplishment which he then transforms into a successful aesthetic innovation. In this respect, his work may be profitably compared to that of other artists of consequence who in the course of a creative lifetime make adjustments to their styles and formulate new expressions in diverse works of art which are, however, unified by common aesthetic principles and a personal aesthetic. Throughout his career, then, Noda has been consistently fascinated by the concepts of unlimited space and movement through it. He deconstructed his early compositions which relied upon flat, two-dimensional geometric forms floating in limbo and has transformed them from statements embodying cold, static geometric perfection into more sensual expressions of kinetic forms rhythmically traveling through space. His creations are simultaneously intimate microcosms and minute fragments of a larger, interconnected macrocosm.

Born in Hiroshima Prefecture in 1949, Masaaki Noda lived and studied in Japan, spending four years at the Osaka University of Arts. There he began his career as a painter, but eventually embraced the art of print making, concentrating almost exclusively on the processes of silkscreen from 1972 to 1977. These early works exhibit an exacting and precise registration of both form and color, are characterized by a mathematical precision clearly indebted to the contemporary Op Art movement, and may be compared to the oeuvre of Victor Vassarely. His palette was confined to pure hues, which have been described as flat and opaque, cold and cerebral, but which were to serve him well later when in the 1980s he reintroduced an adaptation of this monochromatism in his Paper Sculptures. His geometric repertoire of forms relied upon both circle and triangle. At the same time Noda exploited the opacity of chromatic tones which were dominated by arithmetically configured forms. These creations suggest that he was reinterpreting contemporary works by Max Bill. Clinically detached, some of these early works, nevertheless, are harbingers of Noda's later development. They reveal, even at this early

date, his continuing interest in polychromatic values. He explored the subtle modalities inherent in his use of steel blue hues and soft crimsons which enabled him to temper angular, hard-edged forms with lighter passages which appear, in some of these earlier works, to be white to the naked eye. These highlighted areas suggest reflected light without enhancing the solidity of their geometric shapes. In a critical assessment, such passages are more decorative than spatial, and may be regarded as the by-products of the silkscreen process itself. Nevertheless, Noda capitalized on the potential of such highlighted areas and continued to explore various possibilities until such highlighting of rectilinear forms became a stylistic feature of some of his later works.

In 1977, five years after having been graduated from Osaka University of Arts, Noda arrived in New York City, intent upon embarking on a career in art, in which he continues to distinguish himself. Today, Noda is universally recognized as a printmaker, painter, collagist, and sculptor. He enrolled in the Art Students League in New York City, and, in keeping with that institution's philosophy that aspiring artists must be able to support themselves, became gainfully employed by taking any odd job which came his way. Living the Bohemian life in a loft in a dangerous section of Chinatown, where his wife and small son were soon to join him, Noda spent three years at that institution applying himself assiduously to his studies.

The earliest works of art in his first American suite, the Dimension Series, were indebted to his previous Japanese graphics because they initially relied upon rectilinear forms serving as compositional focal points. Gradually, Noda began to introduce curvilinear forms, with which he had been working since 1972, into his Dimension Series. Their combination in his oeuvre was now linked to themes which suggested movement into spatial environments. At the same time he began to repudiate the opacity of his hard-edged Japanese-produced silk screens in favor of lighter transparencies which themselves suggested the third dimension. Three-dimensionality and movement into space combined



次元-17-J
DIMENSION-17-J
1980

with a more painterly palette to imbue these works of art from Noda's early American period with a sensuality completely absent from his earlier Spartanly cerebral, Japanese silk-screens.

1979-1980 was, therefore, to be a period of transition for Noda. Still basing his work on the silk screens of the past, he gradually abandoned their hard-edged style in favor of a more lyrical and energetic approach. There is a very definite development in his Dimension Series. Whereas the earliest works in this suite are indebted both to his earlier Japanese graphics and are only vaguely reminiscent of Frank Stella's work from the same period, Noda gradually turned away from scientifically precise mathematical forms and begin to embrace more naturalistic, perhaps one should say, humanistic, sensual forms, which achieve their effect in compositions in which Noda generates greater spatial depths and relies more and more upon chromatic transparencies. Whereas he still relied upon the triangle as his dominant motif, he revealed a willingness to deconstruct it so that this primal form appears in this suite simultaneously as both shape and line, an effect enhanced by his greater reliance upon polychromatic transparencies which enabled Noda to modulate his colors more effectively.

It was during his transitional period of 1979 as well that Noda first began his intensive exploration of the relationship between two-dimensional surfaces and three dimensional sculpture. That continuing interest in this particular synatesis was given visual expression in the early 1980s when Noda introduced his Sky Sculptures launched in New York City's Central Park. Described by some as self-sufficient versions of his two-dimensional works of art, Noda equated the three dimensional components of his sky sculptures with the curvilinear forms of his two-dimensional oeuvre and the clear blue color of the summer sky served as the surrogate for his two-dimensional spatial environments. The effect of breezes on these Sky Sculptures and the changing quality of the sunlight on their limited palettes of either two or three colors created fluid, graceful but ever changing compositions. Noda had achieved in the realm of the third dimension what he had been suggesting in his Dimension Series.

Almost immediately thereafter, Noda began to incorporate the advances he had achieved with his Sky Sculptures in a limited suite of small, intimate sculptures in black and white paper. He considered these Paper Sculptures more as maquettes than as finished works of art, works in progress, as it were, which served him as conceptual starting points and

stimuli for more durable and more permanent sculptures which he had already envisioned could be created on a monumental scale in stainless steel measuring ten feet in height. The format and medium of the Paper Sculptures enabled Noda to give free reign to his creative talents and impulses as he transformed the overlapping forms of his flat surfaces in his graphic compositions into actual three-dimensional spaces, relying upon retinal stimulation caused by the monochromatic polarity of black and white to create the successive receding and advancing interplay so necessary for achieving his aesthetic of spatial environments.

Pausing for a moment to reflect, one may be able to understand why Noda's oeuvre can be characterized as a dialectic between tradition and innovation. His Dimension Series paved the way for this Sky Sculptures which in turn were the catalyst for his Paper Sculptures, and these in turn were indebted to his earliest works as a student in Japan for their chromatic effect. The remarkable achievement of PERPETUAL FLIGHT II BEYOND TIME AND SPACE, unveiled on 19 May 2000, in Shinichi-cho, Hiroshima Prefecture, can only be regarded in these terms, but its genesis is further dependent upon other innovations formulated by Noda in his two-dimensional works of art.

Between 1983 and 1985, Noda created his first large format, two-dimensional pieces with the intent of easily overpowering their percipient by the sheer force of their kinetic energies. In order to achieve his objective, Noda again reverted to his own tradition and transformed the monochromatism of his Paper Sculptures into achromatic compositions which continued to explore the synartesis between the second and third dimension. Primarily orchestrations in black and white, Noda created forms in space in charcoal, conte, pencil, pastel, and acrylic on gesso. Charged with energy, these works defined Noda's self-proclaimed period of liberation as he eventually made a final break with the mathematical geometry of his Japanese-produced graphics and turned to what he himself described as "Turner's architectural dynamism," referring to Joseph Mallord Turner's late luminous paintings which dissolve in a shimmering haze of light and color.

1985 was another watershed year for Noda, as he successfully transformed these achromatic compositions by introducing several innovations into his oeuvre. Foremost among these are the swirling images, created with transparent colors, which begin to dominate his oeuvre in 1985. Often compared to flying birds, these swirls define the



空中彫刻
SKY SCULPTURE
1982

spatial relationships in his composition and are imbued with a strong sense of movement. Solid forms now seem to dematerialize into amorphous shapes, transformed into swirls of color. But Noda's insistence upon formulating a synartesis between two- and three-dimensional works of art assumes an added dimension in his works of art of this period. Realizing that sculpture, as a three-dimensional object, radiates into space from the 360 degree circle that it occupies, and realizing that such sculpture in the round is not bound by any framing restraints, Noda began to violate the frames of his two dimensional works by allowing his swirling forms to swing off of their compositions and extend beyond the perceived, artistic perimeters of his work. The spatial allusion thereby generated is not confined to the receding and advancing conflict established within the two dimensional surface of these works of art but is ingeniously extended to include the physical environment in which the two-dimensional work is displayed. He thereby created cohesive compositions imbued with the illusion of infinite space.

After having lived in New York City's Chinatown for five years, Noda then moved with his wife and two children into his SoHo loft which amply serves the family as a home and his needs as a studio. By this time he had so refined his printmaking skills that he embarked upon the creation of his first suite of refined, polychromatic silk screens which were to dominate his oeuvre into the late 1980s. One cannot underestimate the labor-intensity of these graphics, the color process of which demand a minimum of seventy but more often requires well over one hundred passes for each print. Such repetition enhances Noda's manipulation of transparent colors and produces the illusion of limitless space. The themes of these graphics are characterized by his exploration of motion in space, motion effected by means of chromatic abstractions of kinetic swirls, sheer veils or kinetic waves of color, as one commentator labeled them, kaleidoscopic in their variety, and labyrinthinely intertwined with one another. Other commentators remarked that these swirls often resemble birds or feathered, wing-like forms. Noda's abstract swirls, regardless of their resemblance to realia, served as psychological highways on which one's psyche could metaphorically travel into and out of artistically manipulated, spatial environments of unlimited scope, enhanced by the penetration of some of those swirls beyond the edge of the composition.

Since 1990, Noda has been working in silkscreen, watercolor, and mixed media on canvas to create his signature works. These rely on

gossamer, polychromatic veils or kinetic waves of color charged with energy which move into and out of the vast spatial illusions contained within his two-dimensional compositions. In his silkscreens, in particular, Noda has been able to violate *la loi du cadre* not only by permitting his kinetic waves to extend over the borders of the paper but also by employing a ragged edge.

These latest, two-dimensional works of art resonate with the same forms and intent as do Noda's first series of metal sculptures, which begin as early as 1988, but are concentrated in the period from 1990 onwards. Working in either brass and coalten or stainless steel, these sculptures are typically either free standing, secured to an integral strut or base, or intended to hang from a ceiling, evoking the effect of his earlier Sky Sculptures. The examples in both types of steel are generally monochromatic, but a certain polychromy is achieved in his brass works. Recent exhibitions which have featured both his latest two-dimensional works of art and sculptures have played to critical acclaim because their juxtapositions reveal just how masterful Noda has achieved his intended synartesis between these media.

A word must, therefore, be devoted to this fascinating confluence of two- and three-dimensional works of art. In both cases, Noda established an infinitely vast space both by the successful use of transparent colors in his two dimensional works and by the positioning of his sculpture in real space. The kinetic energy moving through those spaces is provided by the gossamer veils or kinetic waves of color in the former and by their counterpart, the swirls regarded by some as the bird or feather-like forms of the metal in the latter. Both categories of his oeuvre, however, are abstract expression and can, therefore, be read on many levels. In attempting to define the thematic characteristics of Noda's oeuvre, the gossamer veils or avian forms cannot be segregated from the boundless spatial environments they inhabit. All commentators have remarked that these swirls, often intertwined in violent movement, suggest an apparent effort to liberate themselves from unseen shackles, an effort which is all the more emphasized in those works in which the law of the frame is violated.

Some insight into the nature of this struggle may be provided by a little known category of Noda's oeuvre, namely, his collages of the late 1980s. Quite by accident, Noda began to experiment with collage in 1987 when he unpremeditatedly began to form scraps of images he had torn from



無題
UNTITEL
Paper
1998

various publications into tableaux. Although these collages may be regarded as a departure from Noda's traditionally abstract oeuvre because of their representational idiom, these works are, nevertheless, important because they enabled him, once again, to experiment with the deliberate denial of the defined, rectangular perimeters of a two-dimensional format by allowing the principal image to invade and occupy space traditionally reserved for a secondary element. The invasion is yet another manifestation of Noda's sense of the dynamic force of motion. Despite the fact that the images of these collages are representational, often reproductions of famous works of Western art, and usually incorporating birds, they are, nonetheless, arranged in swirling, violent movement. One commentator has perceptively linked these images to the Romantic notion of mysticism, regarding all as metaphors of a desire to escape from the anxieties, fears, and opprobrium of earth in order to attain the purity of heaven. This interpretation may be extended to include the significance of Noda's two monumental stained glass compositions dedicated in 1997, *COMING AND GOING* and *VICISSITUDE AND RISING TO THE FIRMAMENT* which greet visitors arriving at Keihan Uji Station, in Kyoto in order to experience the Byodo-In with its temple and garden representing The Pure Land of Amida in terrestrial form. In keeping with Buddhist tenets regulating the soul's quest for Enlightenment, Noda's kinetic swirls playing against the sunlight striking these exceptional stained glass works emphasize this spiritual movement toward the divine. Each commentator, therefore, has empathetically reacted to Noda's work on primal terms linking the violent swirls of his latest work to a force which seeks a higher goal and expends great energy in the process.

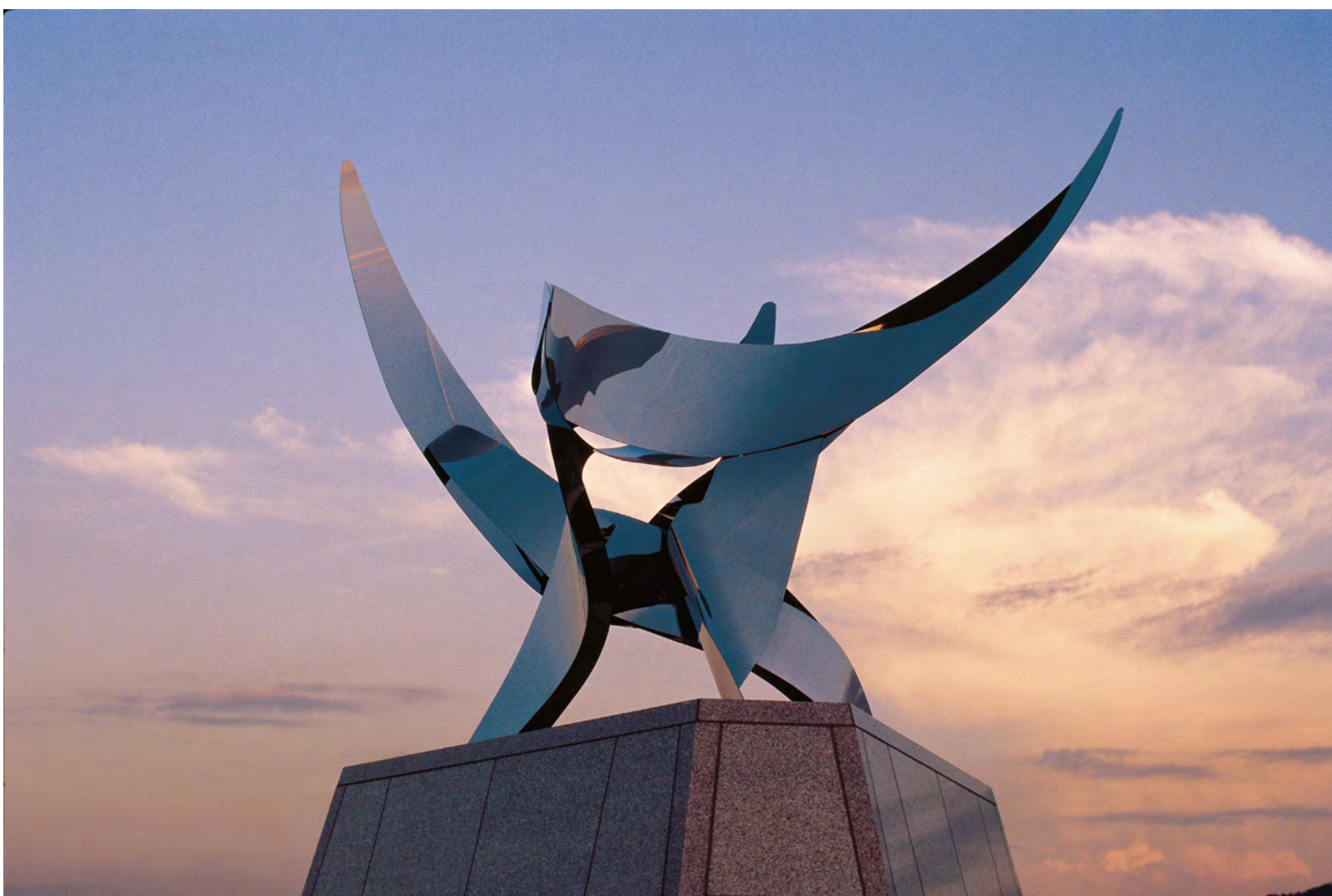
The culmination of Noda's exploration of this fundamental theme to date is his monumental, stainless steel creation *PERPETUAL FLIGHT II BEYOND TIME AND SPACE*, fabricated under his direction in Osaka, where he first studied art, and dedicated on 19 May 2000, in Shinichi-cho, Hiroshima Prefecture, his birthplace. Here, Noda's gossamer veils or kinetic waves of color have been transformed into stainless steel abstract forms, retaining the monochromatic values inherent in his earlier black and white Paper Sculptures.

Great works of art, and this sculpture is to be included in that category, are labeled great because their inherent polyvalent messages speak meaningfully to individuals separated from one another by tradition, culture, language, and the like. In so doing, great works of art

communicate a unitarian message. Some, regarding this monumental work of art from a Western perspective will automatically associate it with the Romantic Period's definition of transcendental Nature and recognize its struggle with transitions. Indeed, Noda's intentional incorporation of metal surfaces which will appear to be dark under certain circumstances will never be opaque. Consequently, one may regard this monument as a universal desire to escape from the anxieties and fears of this earth in order to ascend to the purity of a celestial realm beyond. Only by passage through such maelstroms can one finally arrive at a transcendental world. In this context, then, Noda's sculpture is the spiritual heir to the whirlpool drawings of Leonardo da Vinci. Other commentators have regarded Noda as a Japanese artist working in America and may, prefer to regard his feather or bird-like forms in this sculpture from a purely Japanese perspective.

The purity of Noda's abstract forms precludes a precise definition, but his forms truly embody natural forces caught in an agon of epic proportions. Whether one regards this struggle as a conflict between the real and the imagined, the suave and the energetic, or the sublime and the dynamic, Noda's sculpture undeniably captures the cosmos in perpetual, restless formation. It is a palpable image of metamorphosis. It seems to represent something magnificent which is about to come into being, born of an intense struggle, but all the percipient are permitted to witness is its beginning. Encountering such a sculpture is an exhilarating, aesthetic experience; its visual impact is immediate; its message universal.

Sculpture





1 疾風 フラッシュ バック
Gail Flash Back
Stainless Steel, white Granite
2000
235×185×185cm
94×74×74"



2 自立-SN
Independence-SN
Stainless Steel
2000
72×64×37cm
31×25×14 $\frac{1}{2}$ "



3 波動
Undulation
Brass
2000
52.5×57.5×40cm
21×23×16"



4 発生
Generation
Brass
2000
60×57.5×50cm
24×23×20"



5 将来
Hereafter
Brass
2000
60×57.5×40cm
24×25×13"



6 躍進
BREAKTHROUGH
Brass
2000
46×54×45cm
18×22×18"



7 机会
OPPORTUNITY
Brass
2000
50×45×26cm
20×18×10 $\frac{1}{2}$ "

Perpetual Flight II
Beyond Time and space
飛翔Ⅱ 時空を超えて









8 飛翔Ⅱ 時空を超えて
Perpetual Flight Ⅱ, Beyond Time and Space
Stainless Steel, White Granite
2000
6×3.5×3m
20×12×10feet





9 飛翔-II
PERPETUAL FRIGHT-II
時空をこえて
BEYOND TIME AND SPACE
Stainless Steel
1999
42×42×36cm
17×17×14"

設置 飛翔Ⅱ 時空を超えて 新市、広島
Installation of Perpetual Flight II, Beyond Time and Space, Shinichi, Hiroshima



題字 緒形 拳
Title letter Ken Ogata



10 | 旋回 II
EVOLUTION II
Coalten Steel
1991
69×62×46cm
27 $\frac{1}{2}$ ×25×18"



11 | 求心的旋回 II
CENTRIPETAL EVOLUTION II
Stainless Steel
1991
72×70×47cm
29×28×19"



12 | 求心的旋回
CENTRIPETAL EVOLUTION
Coalten Steel
1992
72×75×55cm
29×30×22"



13 はるかに-SN
AFAR-SN
Stainless Steel
1988-1993
89×80×35cm
35×32×14"

14 はるかに
AFAR
Coalten Steel
1988-1993
79×81×35cm
31½×32½×14"



15 旋回
EVOLUTION
Coalten Steel
1991
67×65×49cm
27×26×19½"





16 入射
INCIDENCE
Stainless Steel
1993
126×90×70cm
50 $\frac{1}{2}$ ×36×28"



17 合間
INTERLUDE
Coalten Steel
1993
55×50×25cm
22×20×10"



18 微候
SYMPTOM
Stainless Steel
1993
93×66×66cm
37×26½×26½"



19 追跡
TRACING
Coalten Steel
Stainless Steel
1993
23×30×21cm
9×12×8½"



20 曲折
WINDING
Stainless Steel
1995
35×19×17cm
14×7½×6½"



21 曲折 II
WINDING II
Stainless Steel
1995
27×21×15cm
11×8×6"



22 曲折 III
WINDING III
Stainless Steel
1995
24×32×27cm
9½×13×11"



23 觉醒-2
AWAKENING-2
Stainless Steel
1995
33×30×18cm
13×12×7"



24 | 觉醒
AWAKENING
Coalten Steel
1995
34×26×11cm
13 $\frac{1}{2}$ ×10 $\frac{1}{2}$ ×4 $\frac{1}{2}$ "



25 | 觉醒-3
AWAKENING-3
Coalten Steel
1996
32×22×15cm
13×9×6"



26 觉醒-4
AWAKENING-4
Stainless Steel
1996
33×40×26cm
12×16×10½"



27 觉醒-5
AWAKENING-5
Stainless Steel
1996
17.5×40×20cm
7×16×8"



28 流体
FLUID
Stainless Steel
1996
60×90×30cm
24×36×12"

29 流体 II
FLUID II
Stainless Steel
1996
40×85×45cm
16×34×18"



30 流体 III
FLUID III
Stainless Steel
1996
50×60×30cm
20×24×12"





31 | 疾風
GAIL
Stainless Steel
1999
47×41×39cm
19×16½×15½"



32 | 潮衝
RIPTIDE
Brass
1999
48×41×39cm
19×16×15 $\frac{1}{2}$ "



33 先見
FORESIGHT
Brass
1999
44×32×30cm
17½×12½×12"



34 流動
FLOWAGE
Stainless Steel
1999
37×45×31cm
15×18×12"



35 | 流動 II
FLOWAGE II
Stainless Steel
1999
43×45×35cm
17×18×14"



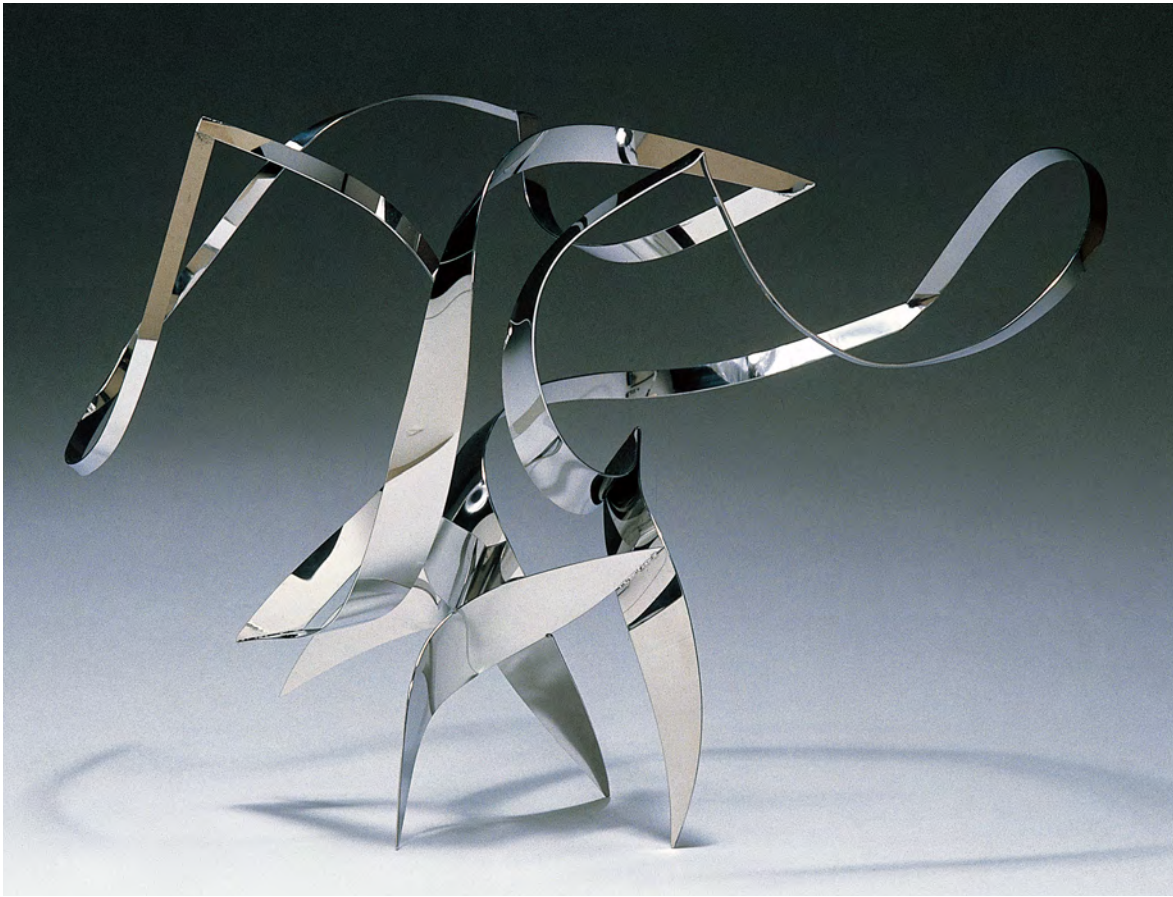
36 想念
NOTION
Brass
1999
50×75×62cm
20×30×25"

37 範囲
ORBIT
Brass
1999
25×26×21cm
10×10 $\frac{1}{2}$ ×21"



38 束の間
MOMENTARY
BRIEF
Brass
1999
28×26×19cm
11×10×7 $\frac{1}{2}$ "





39 同時発生
SYNCHRONISM
Stainless Steel
1999
35×27.5×30cm
14×11×12"



40 同時発生-B
SYNCHRONISM-B
Brass
1999
44×57.5×30cm
17 $\frac{1}{4}$ ×23×12"



41 | 探索者
SEEKER
Brass
1999
40×45×25cm
16×18×11"



42 自立
INDEPENDENCE
Brass
1999
43×36×18cm
17×14×7"



43 相互作用
INTERPLAY
Brass
1999
33×58×33cm
13×23×13"

44 眺望
OUTLOOK
Brass
2000
37×37×25cm
15×15×10"



45 静振
SEICHE
Brass
2000
29×37×32cm
11½×15×13"



1985-1999 Paper Model







国際空中彫刻ショー
セントラルパーク、ニューヨーク 1982年 10×3m
International Sky Sculpture Show
Central Park, NewYork. 1982 23×10feet
photo by James Yohe

光を動きに変革する芸術家

ヴァイオラ・ドラス

野田正明は、その抽象的な作品が東洋と西洋の美的感性を深く同化させている数少ない現代芸術家の一人である。野田は、長年にわたって、光と色彩と、開放された構造とで実験を重ねた結果、自然の超越的な美しさを謳いあげる複雑な作品群を作り上げた。日本と西欧の伝統における、静かな風景のさまざまな線が作り出す雄弁さをインスピレーションとして、構造と色彩とを、無限の空間に駆け上がる力強い、動的なイメージに作り替えるのである。

野田の作品では、複雑な束ねられた流動的な色彩が、三次元的な彫刻の世界へと動いていく。曲線と、透明な渦巻と、飛翔する鳥を思わせる光る羽毛のような形象とを併せた野田の叙情的な抽象作品は、浮世絵の自然美とともにコンタニ・コシュンの、光彩を放つ鳥の荒々しい飛翔につながる。

光と空間と動きとの関係を飽くことなく追求した結果、野田は、最終的には、光に満ちた、様々に形を変える、流れるような金属彫刻を作り出した。野田はアレグサンダー・カルダーのように単なる物理的な動きには関心がなく、自由なリズムと力強い平行構造を組み合わせることによって幻想的な動きを作り出す。これは、遊びの即興性と組織的な構築を巧みにバランスさせる複雑な手続きを経て、初めて可能になる。

野田の芸術作品は終わりなき旅ともいえる。それは、1970年代に日本で作成したシルクスクリーンの硬質の三角形や幾何学的な形象から、アメリカに来て以後、1980年代に作られた大型化するキャンバスや彫刻に見られる浮遊するフォルムに至る。革新的なミックスト・

メディア技法を用い、劇的なプッシュ・アンド・プル手法を利用したこれらの作品は、当時流行した「平面」志向と全く対照的に、空間的な調和を達成した。

版画家、水彩画家、コラージュ作家、画家、更には彫刻家として、野田は次々に美学的領域を広げてきた。そうした異った分野を連結させ、高度に主観的な絵画的インスピレーションが重力を無視したような彫刻へと変貌し、三次元的なフォルムが輝く光のペールに滑り込むのを見るのは楽しい。

野田は孤高の芸術家である。フォルムと官能性との均衡を通して精神性を表現するというビジョンはどの流派にも属さない。空間と時間に捉えられた永遠の動きに表現される形而上的特質は最近の作品にとりわけ顕著である。その意味で、野田の最近の傑作はpittura metafisica（形而上絵画）という概念に現代的な次元を与えるものと言える。

ヴァイオラ・ドラス 『ハンデルスプラット』『ドシア・マガジン』誌の美術評論家。その他、『アート・ニュース』など多数の雑誌や新聞に寄稿。アメリカン大学講師。



可能性
Potentially
Collage
1994

Masaaki Noda: A Modern Luminist forging Light into Movement

Viola Drath

Noda belongs to the few contemporary artists whose abstract works reflect a profound assimilation of Eastern and Western aesthetic sensibilities. What emerges during decades of experimentation with light, color and open structure as key stylistic elements, is a complex oeuvre celebrating a belief in the transcendent beauty of nature. Inspired by the linear eloquence of the serene landscapes by Japanese masters and the Western luminist tradition, structure and color eventually are orchestrated into powerful dynamic images that soar into limitless space.

It is easy for the beholder to follow the directions of the movement of the intricately bundled fluid color-shapes that increasingly take on three-dimensional sculptural dimensions. Composed of strong curvilinear structures, transparent twisted swirls and glowing feathery forms suggesting birds in flight, Noda's lyrical abstractions somehow relate not only to the quiet atmospherics in Utagawa Hiroshiges naturalistic landscapes but to the violent fights of the luminous cocks of Kontani Koshun.

Finally, the artist's unending exploration of the relationship between light and space and movement culminates in his free flowing sculptures of various metals in which the elusive space, filled by light, assumes its own commanding identity. Not interested in physical movement like Alexander Calder, the artist relies upon the free rhythms and powerful parallel configurations of his structure to create the illusion of movement. It is a complex process that necessitates a skillful balancing act between the fine art of playful improvisation and systematic structuring.

The artist's journey is a work in progress. It ranges from hard-

edged triangular configurations and related interconnected geometric shapes in tightly composed silkscreens, executed in his native country in the 1970's, to the ever expanding canvases and sculptures that began to blossom into a stunning vocabulary of overlapping free floating forms in the 1980's after his arrival in the United States. Rendered in an innovative mixed media technique, enhanced by a dramatic "push and pull" manner, these works unfold into a plethora of spatial harmonies standing in stark contrast to the "flat surfaces" that were so trendy at that time.

Working as a printer, watercolorist, collagist, painter and sculptor proved to be an exhilarating experience that widened the artist's aesthetic horizons. And it is certainly an intriguing exercise to connect these basic building blocks and to discover how highly subjective painterly inspirations change into gravity defying sculptural constructions while dematerialized three dimensional forms glide into animated veils of luminescence.

Happily, Noda remains an independent. His vision of the expression of spirituality through an equilibrium of form and sensuality is not anchored in any particular school. The metaphysical aspects, superbly expressed in perpetual motion harnessed by space and time, reveal themselves to the fullest in his later works. It is in this sense that Noda's later masterpieces lend the concept of *pittura metafisica* an unique contemporary dimension.

Viola Drath is the art critic for *Handelsblatt* and *Dossier Magazine*. Her articles and essays have appeared in *Art News*, *Art International*, the *New Art Examiner*, *Washington Times*, *Chicago Tribune*, *Commentary*, *Global Affairs*, *Frankfurter Allgemeine Zeitung*, *Das Parlament* and other publications here and abroad. Drath has authored ten books on art and politics and has been adjunct professor at American University.



旋回する振動
Vortical vibration
Collage
1992

Canvas Work
Water Color
Silkscreen



Canvas Work



46 さらに
FURTHER
Acrylic, Charcoal,
Pastel on Canvas
1992
120×175cm
48×70"



47 結合と消失点
CONJUNCTION WITH VANISHING POINT
Mixed Media on Canvas
1992
115×240cm
46×96"

48 | 切点
A POINT OF CONTACT
Mixed Media on Canvas
1993
120×175cm
48×70"



49 | 透徹
PENETRATION
Mixed Media on Canvas
1993
120×175cm
48×70"





50 間隙
INTERSTICE
Mixed Media on Canvas
1993
105×150cm
42×60"



51 偏光
POLARIZATION
Mixed Media on Canvas
1994
66×91cm
30×36"



52 反響と結合
REFLECTION AND CONJUGATION
Mixed Media on Canvas
1994
100×220cm
40×88"



53 密度
DENSITY
Mixed Media on Canvas
1995
70×90cm
28×36"



54 直面
CONFRONTATION
Acrylic, Pastel, Charcoal
on Canvas
1994
120×175cm
48×70"



55 静穩の前に
BEFORE SERENITY
Mixed Media on Canvas
1994-1998
87.5×120cm
35×48"



56 | かつて
ONCE
Mixed Media on Canvas
1994-1999
100×70cm
40×28"



57 | 時々
ONCE AND AGAIN
Mixed Media on Canvas
1995-1999
90×70cm
36×28"



58 | 反響と結合の静穏
SERENITY OF REFLECTION AND CONJUGATION
Mixed Media on Canvas
1998
140×210cm
56×84"



59 過去投影
RETROJECTION
Mixed Media on Canvas
1995-1999
120×87.5cm
48×35"

60 領域
HEMISPHERE
Mixed Media on Canvas
2000
55×75cm
22×30"



61 回歸-C
RETURN-C
Mixed Media on Canvas
1998-2000
55×75cm
22×30"





62 過渡期-M
TRANSITION
PERIOD-M
Mixed Media on Canvas
1995-2000
55×75cm
22×30"



63 過渡期
TRANSITION
PERIOD
Mixed Media on Canvas
1995-2000
55×75cm
22×30"

Water Color

64 静穩の後
AFTER SERENITY
Water Color
1994-1998
70×100cm
28 $\frac{1}{2}$ ×40"



65 最前部-II
FOREFRONT-II
Water Color
1995-1998
73×98cm
29×39"





66 | 直面-II
CONFRONTATION-II
Water Color
1995-1998
72×101cm
29×40"

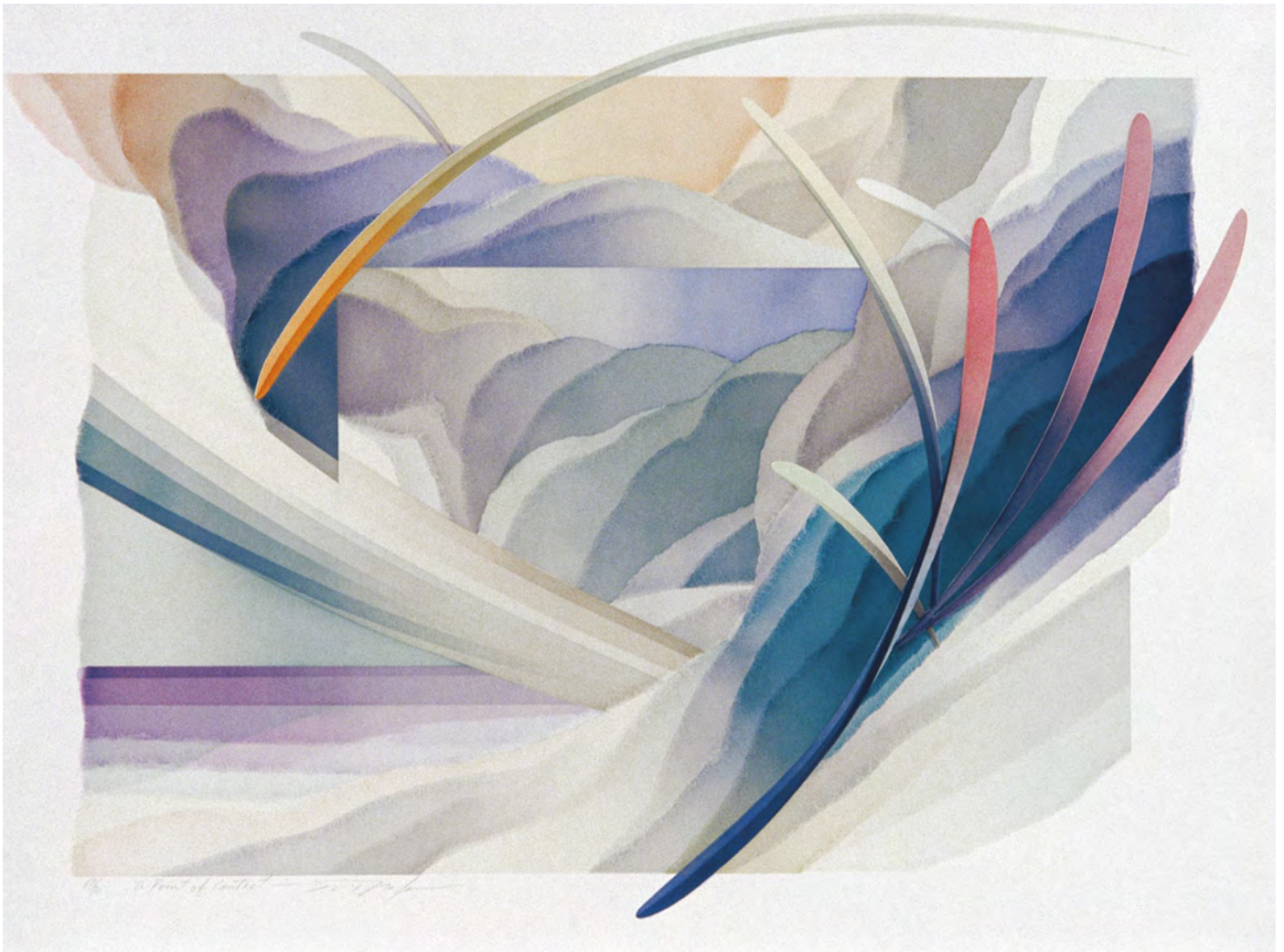


67 | 回歸-II
RETURN-II
Water Color
1995-1998
72×102cm
29×41"

Silkscreen



68 結合と消失点
CONJUNCTION WITH VANISHING POINT
Silkscreen
1992
69×108cm
27×42"



69 切点
A POINT OF CONTACT
Silkscreen
1993
57×76cm
22½×30"



70 境界層
BOUNDARY LAYER
Silkscreen
1996
24×32cm
9½×13"

71 上昇
UPSWEEP
Silkscreen
1994
38×28cm
15×11"



72 外部
WITHOUT
Silkscreen
1994
28×38cm
11×15"



73 流入
INFLOW
Silkscreen
1994
28×38cm
11×15"



74 入射
INCIDENCE
Silkscreen
1994
38×28cm
15×11"





75 間隙
INTERSTICE
Silkscreen
1994
57×76cm
22½×30"



76 回想
REMINISCENCE
Silkscreen
1995
38×57cm
15×22½"



77 偏光
POLARIZATION
Silkscreen
1996
57×61cm
22½×28"



78 至近距離
POINT BLANK
DISTANCE
Silkscreen
1996
38×57cm
15×22½"



79 至近距離の反射
REFLECTION OF THE
POINT BLANK DISTANCE
Silkscreen
1997
55×76cm
22×30"



80 去来
COMING AND GOING
Silkscreen
1998
76×57cm
30×22½"



81 残像を越えて
ACROSS THE SPECTRUM
Silkscreen
1998
57×46cm
22½×18"

飛翔

PERPETUAL FLIGHT

京阪電鉄宇治駅
ステンドグラス



天空昇 RISING TO THE FIRMAMENT

Stained Glass
235×630cm
94×252"
Keihan Uji Station in Kyoto 1997

去来、流転 COMING AND GOING AND VICISSITUDE

Stained Glass
200×505cm
80×202"
Keihan Uji Station in Kyoto 1997

空中の身振り 野田の崇高さ

ドナルド・カスピット

ニューヨーク州立大学ストーニー・ブルック校芸術歴史学・哲学教授

野田正明の作品は気体力学と偉大な表現主義的な身振りとが合わさり、モダニズムの二つの原則が一つになって新たな崇高さを作り出す。これらは二十世紀の初めにさかのぼるものであって、気体力学的側面はマレヴィッチの至高主義とドローネの宇宙的ディスクに、また表現主義はカンディンスキーの抽象表現主義に、その例を求めることができる。気体力学は空気の抵抗を減らすために流線形を志向し、表現主義的身振りは本能的なエネルギーを志向する。気体力学が絶えず洗練を求めるとすれば、表現主義は絶えず衝動性を求める。

野田のフォルムの素晴らしさは、二次元的なものも三次元的なものも、効率の高さと衝動性とを同時に表すところにある。外的に迅速であり、内的に急迫する。純粋なフォルムを必要最低限に削り込み、一つの動きに表現力を集中する。包括的であると同時に均衡がとれている。最も肝要な点は、野田の作品が、宇宙的な動き、あるいは精神的希求を示唆する無限のダイナミズムを伝えることだ。

事実、1997年の稀なモダニスト・ステンドグラスの作品『天空昇』『去来 流転』と2000年の『飛翔Ⅱ 時空を越えて』とは、抽象的崇高さの具現化である。私にとって、これらはここ十年間の最高作品であって、野田の作品の内蔵テーマとなっている超越的な体験を、完璧なまでの技量で伝える傑作となっている。それはまるでかつての二次元的な作品は、一種のリハーサル、すなわち、色彩及び線の双方で息を呑む精確さで達成された超越的飛翔への準備であったといえる。

とりわけ『飛翔Ⅱ』は求心的な動きと遠心的な動きと

を融合させている。これは1992年の『求心的旋回』及び1996年の『流体』シリーズが示す通り、野田にとって長年の関心事である。この作品は、たとえば1999年の優れた『探求者』と『相互作用』のような多くの作品が示すように、ブランクーシの鳥が羽根を広げたようでもある。ふざけて箱から出してみたら、抽象的な飛翔を始めたと言ってもいい。野田の生命力に満ちた彫刻は、ブランクーシの鳥のように、驚くべき生き物らしさを持っているものの、本来的には抽象的であって、現実はそのから離れた観念（たとえば、動きという概念）に分析できるということを示唆している。野田の作品は動きという概念を、あたかもそれが自律的に真実であるかのごとく具体化するが、それはいかに地についたものであっても、宇宙的なものとならざるをえない自然の動きを表すのである。

野田の作品は台座に据えないものと据えているものがある。後者は驚くほど植物に似ており、1999年の『範囲』や『束の間』などは真鍮の緑がその印象を強める。これに対して、台座に据えていないものは奇妙に動物の存在を示すもので、事実、克服すべき障害物を求めて空間を突進するようにもみえる。1999年の『流動Ⅱ』や『潮衝』や『想念』は自己充足的というべきか、あるいはゴルディウスの結び目のように自己もつれの的というべきか、いずれにせよ、不可抗力の勢力でもって前進する。それは野放図に見えるかもしれないが、確実な目的がある。事実、野田の作品は全て目的と自由な流れとを備え、それが溶け合って英雄的な決断と、道教でいう永遠の「道」とを示唆するのである。



天空
Firmament
Collage
1992

The Airborne Gesture: Masaaki Noda's Sublime

Donald Kuspit

In Masaaki Noda's work the aerodynamic and the grand expressionist gesture converge: two of the basic principles of modernism become one, to new sublime effect. Both began their long careers at the beginning of the twentieth century, the former in the aerodynamic phase of Malevich's Suprematism and in Delaunay's cosmic disks, to cite two famous examples, and the latter with Kandinsky's Abstract Expressionism. Aerodynamics deals with the movement of objects in the atmosphere --they can be streamlined so as to reduce wind drag, making for more efficient movement--while the expressionist gesture resonates with instinctive energy. Aerodynamics aims at greater and greater refinement, gesturalism aims at greater and greater impulsiveness. The triumph of Noda's forms, whether in two or three dimensions, is that they seem simultaneously efficient and impulsive--outwardly swift and inwardly driven. They seem to pare pure form down to a necessary minimum, and to concentrate expressive power in a singular movement. They are at once sweeping and balanced. Most crucially, they convey a sense of cosmic movement--the dynamic of the infinite, as it were, suggestive of spiritual aspiration.

Indeed, *Rising to the Firmament*, 1997, a rare instance of modernist stained glass, and *Perpetual Flight II, Beyond Time and Space*, 2000, are brilliant embodiments of the abstract sublime. To me they are the climactic works of the last decade--masterpieces conveying, with consummate skill, the experience of transcendence that is the implicit theme of Noda's work. It is as though Noda's two dimensional work was a rehearsal--a kind of limbering up--for the flight of transcendence realized with breathtaking precision, in both color and line, in these two works.

Perpetual Flight II is a particular triumph, for it ingeniously fuses

centripetal and centrifugal movement, which have been longstanding concerns of Noda, as the *Centripetal Evolution* series, 1992 and the centrifugal *Fluid* series, 1996 indicate. This work, like so many others--for example, the marvelous *Seeker* and *Interplay*, both 1999--seems like a Brancusi bird unfolded--playfully unpacked, as it were, so that it spreads through space as though in abstract flight. Like Brancusi's birds, Noda's vital sculptures, which have an uncanny creatureliness, are inherently abstract, suggesting that reality can be analyzed into an idea that is independent of it--the idea of movement, for example--which, nonetheless, seems to distill its essence. Noda's work embodies the concept of movement as though it was an autonomous truth, even as it is emblematic of the movement of nature, which is invariably cosmic, however earthbound it seems.

Some of Noda's sculptures are freestanding, and some are on pedestals. The latter have an uncanny resemblance to plant life--the green color of the brass of *Orbit* and *Momentary brief*, both 1999 reinforces the illusion. In contrast, the former have a peculiarly animal presence, and in fact seem on the prowl, surging through space in search of obstacles to overcome. *Flowage II, Riptide*, and *Notion*, all 1999 are self-contained--indeed, self-entangled, like Gordian knots--yet move forward with irresistible force. They may look wild, but there is a purposive thrust to them. All of Noda's works in fact involves purposive design and free flow, fused to suggest heroic determination and the timeless Tao.

Donald Kuspit
Professor of Art History and Philosophy,
Stony Brook State University New York

Data



プロフィール

- 1949 ●12月19日広島県生まれ
1972 ●大阪芸術大学油絵科修了
1977 ●渡米
1977-80
●エリザベスカーティーズ奨学金を受け、アート・
スチューデント・リーグ(ニューヨーク)で学ぶ

個展

- 1972 ●信濃橋画廊(大阪)
1973 ●画廊みやざき(大阪)
1974 ●画廊みやざき(大阪)
1975 ●版画ギャラリー(京都)
●信濃橋画廊(大阪)
1976 ●信濃橋画廊(大阪)
1977 ●信濃橋画廊(大阪)
●画廊みやざき(大阪)
1979 ●信濃橋画廊(大阪)
1980 ●信濃橋画廊(大阪)
1982 ●ACWLPギャラリー(ニューヨーク)
●キュー・ギャラリー(ニューヨーク)
●ミリアム・パールマン・ギャラリー(シカゴ)
1984 ●ミリアム・パールマン・ギャラリー(シカゴ)
●ベル・アート・ギャラリー(ニューヨーク)
1985 ●ギャラリー・タウンタウン(テキサス)
●ベル・アート・ギャラリー(ニューヨーク)
●ヨウ・アート・ギャラリー(大阪)
1986 ●ヒロ画廊(東京)
●ヨウ・アート・ギャラリー(大阪)
●大阪府立現代美術センター(大阪)
●ギャラリー・アクセス・アクト(京都)
●天満屋モダン・アート・ギャラリー(福山,広島)
1987 ●ギャラリー・ル・コアン(大阪)
●ギルバート・ルーバー・ギャラリー
(フィラデルフィア)
1988 ●ウエニガー・グラフィック
(マサチューセッツ・ボストン)
●ウエニガー・グラフィック
(マサチューセッツ・プロビスタウン)
●マリー・ギャラリー(ニューヨーク)
1989 ●ウエニガー・グラフィック
(マサチューセッツ・ボストン)
●ウエニガー・グラフィック
(マサチューセッツ・プロビスタウン)
1990 ●ギルバート・ルーバー・ギャラリー
(フィラデルフィア)
●アーティスト・ギャラリー(ニューヨーク)

●シートンホール大学アート・ギャラリー
(ニュージャージー)

- 1991 ●ヒロ画廊(東京)
●伽藍洞ギャラリー(名古屋)
●ヨウ・アート・ギャラリー(大阪)
●ヒロ・チカシゲギャラリー(岡山)
●スズカワ画廊(広島)
●ふくやま美術館ギャラリー(福山,広島)
●天満屋美術画廊(福山,広島)
1992 ●ギャラリー青城(仙台)
●ギャラリーAPA(名古屋)
●SPF USA, ギャラリーライブラリー
(ワシントンD.C.)
1995 ●ギャラリーサイクラデス(フランス)
●ジョン・キアラハン・ギャラリー(ボストン)
●ヒロ画廊(伊豆高原)
1999 ●70thアート・ギャラリー(ニューヨーク)
2000 ●ヒロ画廊(東京)
●ギャラリー・ファイン・アート(大阪)
●天満屋美術画廊(福山,広島)
●スズカワ画廊(広島)
●ブーゲンヒリア・ギャラリー(ギリシア)
●アート・コム・ギャラリー(大阪)
2001 ●アート・コム・ギャラリー(大阪)

講演

- 1983 ●ペンシルバニア大学(ペンシルバニア)
1985 ●ペンシルバニア大学(ペンシルバニア)
1987 ●ペンシルバニア大学(ペンシルバニア)
1989 ●ペンシルバニア大学(ペンシルバニア)
1992 ●SPS, USA, ギャラリー図書館
(ワシントンD.C.)
1994 ●ニュースクール(ニューヨーク)

プロジェクト

- 1997 ●京阪電鉄宇治駅南入口来迎壁「飛翔」
1F 200×550 cm 「去来,流転」
2F 235×630 cm 「天空昇」の上下2段
ステンドグラスを設置
2000 ●台座3m, 立体3×3.5×3m, ステンレス
飛翔II, 「時空を越えて」
広島県新市町へ設置

会員

- オーデュボンアーティスト協会、ディレクター
(ニューヨーク)
●アメリカ版画協会、委員(ニューヨーク)
●ボストン版画協会、会員(ボストン)
●アルパニー版画協会、会員
(アルパニー、ニューヨーク)
●ニューヨーク版画協会、会員(ニューヨーク)

受賞

- 1976 ●大阪市長賞 第26回 モダンアート展
(東京,京都,大阪)
1979 ●買上賞 第31回 ボストン全米版画展
(マサチューセッツ)
1980 ●買上賞 第4回 シャーロットて東部版画展
(ノースカロライナ)
1982 ●買上賞 第3回 アラバマ・ワークス・オン・
ペーパー展巡回展(アラバマ)
1983 ●買上賞 ニューヘブン・ペイント&クレイクラ
ブ・メンバー展(コネチカット)
1984 ●栄誉賞 第11回 国際ドッグウッド・アート展
(ジョージア)
●第2賞 キャリア・ファイン・アート・ショー
キャリア・ファンデーション企画ジムナジウム
(ニュージャージー)
●第2賞 第10回 国際小品展
フロリダ小アート協会(フロリダ)
●第2賞 第9回 全米小品展
ララミー・アート・ギルド(ワイオミング)
●ステラ・ドラブキン記念賞
第40回 アメリカン・カラー・プリント協会展
(ペンシルバニア)
●第3賞 第85回 水彩画展
ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
1985 ●買上賞 第12回 国際ドッグウッド・アート展
(ジョージア)
●栄誉賞 第7回 国際展
モンタナ小アート協会(モンタナ)
1986 ●第3賞 第15回 全米小絵画展
ニューメキシコ・アート・リーグ
(ニューメキシコ)
●買上賞 全米アート版画展
コロンビア美術館(モンタナ)
●栄誉賞 第13回 国際ドッグウッド・アート展
(ジョージア)
●第1賞 第1回 国際小品展(ジョージア)
1989 ●第1賞 第16回 国際ドッグウッド・アート展



EXPRESSION-95-J
Silk Screen
1977
55×55cm
22×22"

- (ジョージア)
- 第2賞 第11回 国際展モンタナ小アート協会
キャスティル・ギャラリー企画(モンタナ)
- 栄誉賞 1989年全米アート・ショー
ノース・ヴァレー・アート・リーグ
(カルフォルニア)
- 栄誉賞 全米ミュージアム・アート・ショー
レーパー・ハウス(ニューヨーク)
- 1992 ●第3賞 1WA ファンデーション国際展
(チェコスロバキア)
- 1999 ●ジョンテラー・アームズ賞、
第57回 オーデュボンアーティスト展
(ニューヨーク)
- 2000 ●買上賞 第68回 アメリカ版画協会
ステファン・ガング・ギャラリー(ニューヨーク)

イベント & ショー

- 1982 ●国際招待空中彫刻ショー
レインボー・アート・ファンデーション企画
アメリカ、オランダ200年友好記念展
(ニューヨーク)

グループ展

- 1971 ●3人展 ヤツイギャラリー(大阪)
- 1972 ●ペーパー・プラン展 信濃橋画廊(大阪)
- 1972-73 ●全版画展 画廊みやざき(大阪)
- 1972-77 ●小版画展 画廊みやざき(大阪)
- 1975 ●Ge展 大阪府民ギャラリー(大阪)
 - シルクスクリーン・プリント6人展
ギャラリー・ファインアート(大阪)
 - 現代版画コンクール展
大阪府民ギャラリー(大阪)
- 1976 ●“アート・ナウ '76”
兵庫県立美術館(神戸)
 - 第3回 関西モダンアート展
兵庫県立美術館(神戸)
- 1977 ●現代版画コンクール展
大阪府民ギャラリー(大阪)
 - 第13回 現代日本美術展(東京、京都)
- 1978 ●オープニング展
フラックス・ギャラリー(ニューヨーク)
 - 版画展
ダイヤモンド・ギャラリー(ミシガン)
 - 第11回 審査グラフィック展
プリンストン・アート協会
(ニュージャージー)
 - 第2回 シャーロットテ東都版画展

- (ノースカロライナ)
- 1979 ●第7回 国際小版画競作展
ブラット・グラフィック・センター
(ニューヨーク)
 - 第3回 シャーロットテ東都版画展
(ノースカロライナ)
 - 第21回 プリント&ドローイング展
(オクラホマ)
 - 公供の場の為のアート展 サギナウ美術館、
モット・コミュニティ大学、ミリアム・パールマ
ン・ギャラリー(ミシガン)
 - コレクターの為のアート展
エラ・シャープ美術館(ミシガン)
 - 現代日本版画展
アズマ・ギャラリー(ニューヨーク)
 - 現代日本美術展“ジャパントゥディ”
世界貿易センター(ニューヨーク)
- 1980 ●マルチプル'80 全米コンクール
(ミシシッピ)
 - マイアミ国際版画ビエンナーレ(フロリダ)
 - 第13回 全米版画展
シルバー・マイン・ギルド・アーティスト主催
(コネチカット)
 - 第15回 全米ボツダム版画展
ステート大学(ニューヨーク)
 - 第7回 国際ドッグウッド・アート展
(ジョージア)
 - 第6回 フレックヘン国際版画ビエンナーレ
(ドイツ・フレッケン)
 - ファイン・アート・プリント・ワーク展
カリフォルニア州立大学(カリフォルニア)
 - ウェスリオン国際プリント&ドローイング展
4大学巡回展(1981~)ウェスリオン大学
(ジョージア)
 - 第1回 国際ミニアチュール版画展
(韓国・ソウル)
 - 第56回 フィラデルフィア国際版画展
(ペンシルバニア)
- 1981 ●ペーパー・アズ・ア・サーフェイス
ミリアム・パールマン・ギャラリー(シカゴ)
 - 第33回 ボストン全米版画展
フィッチ・バーグ美術館(マサチューセッツ)
 - オリジナル版画展
インターナショナル・アート・コンタクト
ギャラリー(ニューヨーク)
 - 第39回 アメリカン・カラー版画協会展
(フィラデルフィア)
 - 新企画版画展
コミュニティー・ギャラリー(ニューヨーク)
 - 第5回 国際アート・ビエンナーレ

- (チリ・バルパライソ)
- 第57回 フィラデルフィア国際版画展
デラウェア大学ギャラリー
(ニュージャージー・ペンシルバニア)
- 1982 ●2人展(フィリス・スローン)
ベル・アート・ギャラリー(ニューヨーク)
 - 第81回 ニューヘブレン・ペイント&クレイ
クラブ展(コネチカット)
 - グラフィック審査展
テンポ・ギャラリー(ウイスコンシン)
 - 第1回 アートリンク全米版画展
(インディアナ)
 - ミシガン大学25周年記念展
“IT CAN'T BE DONE ON CANVAS”
ミリアム・パールマン・ギャラリー企画
(ミシガン)
 - 現代日本版画展
ギャラリー・オートノム(ドイツ・ベルリン)
 - 『なぜプリントはオリジナルか展』
チルドレンズ美術館(ミネソタ)
 - 第47回 全米アート展(ニューヨーク)
 - 第4回 国際アート・エキスポ(ニューヨーク)
 - 第24回 プリント&ドローイング展
(オクラホマ)
 - “カラー・イン・モーション”
ウェニガー・グラフィック(ボストン)
 - 第59回 SAGA版画展
クーパー・ユニオン(ニューヨーク)
- 1983 ●ロックフォード国際ビエンナーレ
ロックフォード大学(イリノイ)
 - カーボ・プリオ国際版画展
(ブラジル・リオデジャネイロ)
 - 3人展 ギャラリー500(ペンシルバニア)
 - 第14回 全米版画展
シルバー・マイン・ギルド・センター企画
(コネチカット)
 - 第8回 ダラス大学招待展
(1984年5大学巡回展)
ダラス大学企画(テキサス)
 - グラフィック審査展
テンポ・ギャラリー(ウイスコンシン)
 - 第11回 ビッグ&スモール展
テレイン・ギャラリー(ニューヨーク)
 - グループ・ショー
ギャラリー・オートノム(ドイツ・ベルリン)
- 1984 ●第8回 全米小品展
80ワシントン・スクエア イースト・ギャラリー
(ニューヨーク)
 - 第42回 オーデュボン・アーティスト展
ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)



DIMENSION-3-N
Silk Screen
1978
55×55cm
22×22"

- 第83回 ニューヘブーン・ペイント&クレイ・クラブ展(コネチカット)
- 第10回 クラコウ国際版画ビエンナーレ(ポーランド・クラコウ)
- Ge展 京都市美術館(京都)
- 第49回 全米アート展(ニューヨーク)
- 第15回 G.A.I.ファイン・アート・コンペティション グリーンスポロー・アーティスト・リーグ(ノースカロライナ)
- 第6回 ペンシルバニア水彩画家展 シッペンズバーグ大学フーパー・アート・センター(ペンシルバニア)
- 第4回 国際小版画展 巡回展(スペイン・バルセロナ、カタク、カタロニア)
- メンバー展 ニューヘブーン・ペイント&クレイ・クラブ(コネチカット)
- 1985 ●85年審査展 サミット・アート・センター(ニュージャージー)
- 第6回 招待版画展 アーティスト・シガネチャー・ギャラリー(コネチカット)
- グループショー シビライゼーション(ニューヨーク)
- 第4回 全米版画展 モラヴィン大学ペイン・ギャラリー(ペンシルバニア)
- 第15回 国際展 ルイジアナ水彩画協会(ルイジアナ)
- 第43回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- 第4回 国際小版画展(ポーランド)
- ザ・ピグスト・リトル・アート・ショー シェスタ・キー・ギャラリー(フロリダ)
- ヨーボー全米版画展 ヨーボー商工会議所(フロリダ)
- 第16回 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ(ユーゴスラビア)
- 第2回 カーボリオ国際版画ビエンナーレ(ブラジル)
- 第7回展 ペンシルバニア水彩画協会企画(ペンシルバニア)
- 1985年国際サンディエゴ水彩協会展(カリフォルニア)
- 第86回 水彩画展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- グループ展 ワタナベ画廊(広島)
- リビングトン・スクール展 ノセノ(ニューヨーク)
- 第2回 中華民国国際版画ビエンナーレ 台北美術館(台湾)

- 1986 ●ベーパー・アート国際展(ブラジル)
- 第16回 国際展 ルイジアナ水彩画協会企画(ルイジアナ)
- 第11回 クラコウ国際版画ビエンナーレ(ポーランド・クラコウ)
- 第8回 国際アート・エキスポ(ニューヨーク)
- 海外の日本現代美術 ギャラリー・インターナショナル52(ニューヨーク)
- 第8回 ペンシルバニア水彩画家展 コーラ・B.ミラー・ギャラリー(ペンシルバニア)
- 第1回 国際小品展(カナダ・トロント)
- 1987 ●国際グループ展 ギャラリー・インターナショナル52(ニューヨーク)
- “アーティスト・オン・ザ・カッティング・エッジ” ミリアム・パールマン・ギャラリー(シカゴ)
- ファイン・アート・ショー キャリアファンデーション企画(ニュージャージー)
- ベネフィット展 A.A.A.(ニューヨーク)
- クレムソン・プリント・ドロ잉展(サウスカロライナ)
- グレート・グラフィック展 ギャラリー・インターナショナル52(ニューヨーク)
- 第17回 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ 近代美術館(ユーゴスラビア)
- “スペシャル・エディション展” A.A.O.ギャラリー(パッファロー)
- 第14回 国際ドッグウッド・アート展(ジョージア)
- 3人展 スーヤン・イ・ギャラリー(ニューヨーク)
- 第32回 CWAJ版画展 東京アメリカンクラブ(東京)
- 1988 ●第31回ペイント彫刻展 シドニー・ロスマン・ギャラリー(ニュージャージー)
- Ge展 京都市美術館(京都)
- 第12回クラコウ国際版画ビエンナーレ(ポーランド・クラコウ)
- シルクスクリーンの現在 アートスペースSAGA(京都)

- 第33回 CWAJ版画展 東京アメリカンクラブ(東京)
- “それぞれのアプローチ展” ベン&ブラシ・クラブ(ニューヨーク)
- ワークス・オン・ペーパー&スカルプチャー クレイ・ミナ・ギャラリー(ニューヨーク)
- アメリカ・カラー版画協会メンバー展 ウッドメアー美術館(ペンシルバニア)
- 1989 ●第41回 北米ボストン版画展 ボストン・アート・インスティテュート(マサチューセッツ)
- 国際小品ビエンナーレ ジョン・ズーキ・ギャラリー(ニューヨーク) 巡回展'89・'91
- “男とその空間” レーパー・ハウス(ニューヨーク)
- 第5回 バルナ国際版画ビエンナーレ バルナ・アート・ギャラリー(ブルガリア)
- 国際アートワーク・オン・ペーパー展 サウス・ダコタ大学ギャラリー(サウス・ダコタ)
- 第4回 グレーター・ミッド・ウエスト国際展 中央ミソリー州立大学ギャラリー(ミソリー)
- 第34回 CWAJ版画展 東京アメリカンクラブ(東京)
- 第4回 中華民国国際版画ビエンナーレ 台北美術館(台湾)
- 第18回 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ 近代美術館(ユーゴスラビア)
- アドリエ・ボレス・デ・レオン・メンバー展 ドーマ・ギャラリー(ニューヨーク)
- 9人日本人作家展 ポート・ワシントン公立図書館(ニューヨーク)
- ボストン版画メンバー展 ダクスベリー・アート・コンプレクス美術館(マサチューセッツ)
- 1990 ●第48回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- 日本カルチャー・フェスティバル 世界貿易センター(ニューヨーク)
- 第35回 CWAJ版画展 東京アメリカンクラブ(東京)
- ファイン・アート・ショー キャリア・ファンデーション企画



ナム・ジュン・パイク サテライトプロジェクト
 “グッドモーニング Mr.オーウェル”
 サテライトプロジェクトに5人のアーティストの
 プリント制作 1984
 NAM JUNE PAIK SATELLITE PROJECT 1984
 "Good Morning Mr.Orwell" at Artist Studio
 Made Prints for 5 Artists for satellite
 Nam June Paik, John Cage, Merce Cunningham,
 Allen Ginsberg, Joseph Beuys
 [上段左より]ジョン・ケージ、マース・カニングハム、
 アレン・ギンズバーグ
 [下段右より2番目]ナム・ジュン・パイク

- (ニュージャージー)
- Ge展 京都市立美術館(京都)
 - 3人のニューヨーク作家展 D.D.アーツスペース(台湾)
 - 9人のニューヨーク在住日本人作家展 ペン& ブラシ・クラブ(ニューヨーク)
 - 戦後の日本の美術 ふくやま美術館(広島)
- 1991 ●第49回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- ファイン・アート・ショー キャリア・ファンデーション企画(ニュージャージー)
 - 第6回 パルナ国際版画ビエンナーレ パルナ・アートギャラリー(ブルガリア)
 - 第7回 カタニア国際グラフィック展(イタリア)
 - 4人のニューヨーク・アーティスト ロバート・クシュナー、ダニエル・ジェンドロン、チハン・ヤング、野田正明(仮題) ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー、池袋西武(東京)
 - 継続するコンセプト ミリアム・パールマン・ギャラリー(シカゴ)
 - 第19回 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ 近代美術館(ユーゴスラビア)
 - 新コレクション展 山梨県美術館(山梨県)
 - 第64回 SAGA展 レーバーハウス(ニューヨーク)
- 1992 ●第50回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- 第19回 国際ドッグウッドアート展(ジョージア)
 - 第10回 キャリアファインアート展 アドミニストレーションギャラリー(ニュージャージー)
 - アジアのアート エマジンングコレクター(ニューヨーク)
 - 花の光景 レーバーハウス(ニューヨーク)
 - 日本人アーティスト7人展 テンリギャラリー(ニューヨーク)
 - マン・レイ、タピエス、ポモドロ、野田展 ギャラリーサイクラデス(フランス)
 - 国際アート展 パートI 西武(東京)
 - 間にあって見えるもの イセアートファンデーション(ニューヨーク)
 - '93~'94 巡回展 ふくやま美術館(広島)、ウォーカー・ヒル美術館(ソウル)、パークリュー・ソックギャラリー(ソウル)、
- 新トレンドギャラリー、ハワードサロン(台湾)、G センギャラリー(台湾)、
- 1993 ●第51回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- 第65回 SAGA展(ニューヨーク)
 - モーション展 ウエニガーギャラリー(ボストン)
 - 第38回 CWAJ版画展 東京アメリカンクラブ(東京)
 - 北米審査展 ギャラリー84(ニューヨーク)
 - ボストン版画メンバー展 ダクスベリーアートコンプレックス美術館(マサチューセッツ)
 - 第7回 パルナ国際版画ビエンナーレ パルナ・アートギャラリー(ブルガリア)
 - 小品展 ギャラリー500(ペンシルバニア)
- 1994 ●第52回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
- セオドロス・スタモス、ヤコブ・ビル、野田正明 ギャラリーサイクラデス(フランス)
 - 春のメンバー・アーティスト展 マーケットシアターギャラリー(ニューヨーク)
 - NICAF、国際コンテンポラリー・アートフェスティバル(横浜)
 - 現代アメリカ版画家展 トーマス J、ウォルシュギャラリー(コネチカット)
 - コレクション展 大阪現代美術センター(大阪)
 - 国際版画トリエンナーレ ビトア(マケドニア共和国)
 - SAGA展 北西版画協会企画(オレゴン)
 - ハンス・ヒントラーライター、セオドロス・スタモス、野田正明展 P.T. エフスタフファインアート(ニューヨーク)
 - カリフォニア・ニューヨーク出会い展 ハナー・ケントギャラリー(ニューヨーク)
 - クラコウ国際版画トリエンナーレ クラコウ(ポーランド)
- 1995 ●国際版画展 アダ・マーゴギャラリー(テキサス)
- 西洋アートチャリティー展 ヒロ画廊(東京)
 - 2つの視点95展 大阪芸術大学企画 阪急美術サロン(大阪)
 - 東洋の版画展 市民ギャラリー(ポーランド)
 - 招待、第8回 パルナ国際版画ビエンナーレ(ブルガリア)
- 版画秀作群 '95(オーストラリア)
 - 国際版画展 ワールドアワードウイナーギャラリー(ベルギー)
 - 第7回 中華民国国際版画、ドローイング・ビエンナーレ 台北美術館(台湾)
 - 第19回 北米版画トリエンナーレ スケネクタディ美術館(ニューヨーク)
 - 選技最新版画展 ロア・デザインステインギャラリー(ペンシルバニア)
 - 脚光の8月展 ジョン・キャラハンギャラリー(ボストン)
 - グループ展 ギャラリーサイクラデス(フランス)
 - 第53回 オーデュボン・アーティスト展 ナショナル・アート・クラブ(ニューヨーク)
 - 第7回 ふくやまアートプロジェクト祈り ふくやま美術館(広島)
- 1996 ●東西交流版画展 カール美術大学(カルフォルニア)
- オリブハイダートギャラリー(カルフォルニア)
 - ノーワークコミュニティ・テクニカルアートギャラリー(コネチカット)
 - 479ギャラリー(ニューヨーク)
 - ニューヨークで活躍する日本人画家展 日人会(ニューヨーク)
 - 第54回 オーデュボン・アーティスト展 フェデラルホール(ニューヨーク)
 - ジャシーアート展 イセアートファンデーション(ニューヨーク)
 - 第4回 ベオグラード国際版画ビエンナーレ(ユーゴスラビア)
 - 第65回 SAGA全米版画展 フェデラルプラザ(ニューヨーク)
 - 日本の版画と現代の絵画 ふくやま美術館(広島)
- 1997 ●クラコウ国際版画トリエンナーレ クラコウ(ポーランド)
- ふくやまの洋画展 ふくやま美術館(広島)
 - 第55回 オーデュボン・アーティスト展 サルマガンディクラブ(ニューヨーク)
 - 国際審査展 ビジュアルアートセンター(ニュージャージー)
 - 国連国際校アート展 国連国際校(ニューヨーク)
 - ボストン版画メンバー展 ダクスベリーアートコンプレックス美術館



ナム・ジュン・パイクと
ヒロ画廊 1986
Nam June Paik
Tokyo

- (ボストン)
- レスコバック国際小版画ビエンナーレ
国立美術館(ユーゴスラビア)
- ニューヨークで活躍する日本人画家展
日系人会(ニューヨーク)
- 第66回 北米版画展
ナビスコ本部ギャラリー(ニュージャージー)
- 1998 ●ストックトン北米展
ヒギン美術館(カルフォルニア)
- 版画家展
ズーロギャラリー(マサチューセッツ)
- SAGA
クラスデールアートギャラリー
(ニューヨーク)
- 表像と多様展
ハウサトニック美術館(コネチカット)
- 第5回 国際小品展(ワイオミング)
- 第16回 国際審査展
ローズウエル美術館(ニューメキシコ)
- ワシントン国際版画フェア
ジョージタウン(ワシントン)
- 第20回 北米版画展
スケネクタディ美術館(ニューヨーク)
- 第22回 全米版画ビエンナーレ
シルバーマインドギルドアートセンター
(コネチカット)
- 点 線 かたまり ふくやま美術館(広島)
- 第56回 オーデュボンアーティスト展
サルマガンディクラブ(ニューヨーク)
- ニューヨーク版画協会展
クラスデールギャラリー(ニューヨーク)
- ニューヨークで活躍する日本人画家展
日系人会(ニューヨーク)
- 招待、ホリデー展
セレスギャラリー(ニューヨーク)
- 第10回 国際審査小品展
ローズウエル美術館(ニューメキシコ)
- 1999 ●第44回 CWAJ版画展
東京アメリカンクラブ(東京)
- 花の詩 ふくやま美術館(広島)
- 第69回 SAGAメンバー展
プリンスストリートギャラリー(ニューヨーク)
- 20世紀の証明展 大阪芸術大学主催
ABCギャラリー(大阪)
- 第10回 国際小品展
マジェスカギャラリー(ポーランド)
- 30/30, 30年間アートチューデンツリーグ
卒業生選抜30人展、
アートチューデンツリーグ(ニューヨーク)
- 白いもの、黒いもの ふくやま美術館(広島)

- バルナ国際版画ビエンナーレ
バルナ(ブルガリア)
- ニューヨークで活躍する日本人画家展
日系人会(ニューヨーク)
- アレンギンズバーグと友人
ササピーズ(ニューヨーク)
- 2000 ●アルパニー版画協会メンバー小品展
ルルギャラリー(ニューヨーク)
- グループ展
スタジオB、ファインアートギャラリー
(クイーンズ,NY.)
- ウイリアムバーグ プリッジズ、ジャパン展
ウイリアムズバーグ アート、歴史のセンター
(ブルックリン、ニューヨーク)
- 第58回 オーデュボンアーティスト展
サルマガンディアートクラブ(ニューヨーク)
- ニューヨークで活躍する日本人画家展
日系人会(ニューヨーク)
- 河野芳夫と仲間たち展
ABCギャラリー(大阪)
- 第1回 国際小版画展
ニューリーフエディション
(バンクーバー、カナダ)

パブリック・コレクション

- ブルックリン美術館(ニューヨーク)
- アルブライト・ノックス美術館(ニューヨーク)
- ホフストラ美術館(ニューヨーク)
- ハウサトニック美術館(コネチカット)
- ダクスベリーアートコンプレックス美術館
(マサチューセッツ)
- フィラデルフィア美術館(ペンシルバニア)
- ポートランド美術館(オレゴン)
- エラ・シャープ美術館(ミシガン)
- ミネソタ美術館(ミネソタ)
- オエンスボロー美術館(ケンタッキー)
- 近代美術館(ユーゴスラビア)
- スコピエ現代美術館(ユーゴスラビア)
- 国際グラフィックアート・センター
(ユーゴスラビア)
- カーポ・フリオ美術館(ブラジル)
- ハビア現代国際美術館(ブラジル)
- 大学美術館、ギャラリー(マケドニア共和国)
- クラコウ国立美術館(ポーランド)
- ポツナン国立美術館(ポーランド)
- 台北美術館(台湾)
- 山梨県立美術館(山梨)
- ふくやま美術館(広島)

- 広島県立美術館(広島)
- アルパニー版画クラブ(ニューヨーク)
- 嵯峨美術短期大学(京都)
- 笹川平和財団USA(ワシントンD.C.)
- IWA 財団(チェコスロバキア)
- 大阪国際空港(大阪)
- シカゴ大学(イリノイ)
- ミシガン大学(ミシガン)
- ノースウエスタン大学(イリノイ)
- イリノイ大学(イリノイ)
- ブルックリン大学(ニューヨーク)
- ダラス大学(テキサス)
- ミソール・コロンビア大学(モンタナ)
- ジョージア工科大学(ジョージア)
- 宝塚造形芸術大学(兵庫)
- マツハッタン・グラフィックセンター
(ニューヨーク)
- パーミングハム図書館
- グリニッジ公立図書館(コネチカット)
- アラバマ・アート・リーグ(アラバマ)
- ニューヘブン・ペイント & クレイ・クラブ
(コネチカット)
- ミシガン大学病院(ミシガン)
- 北マイアミ総合病院(フロリダ)
- アメリカ医学協会(イリノイ)
- クエイカ化学協会(イリノイ)
- マーシイ医学センター(イリノイ)
- 北西部記念病院(イリノイ)
- シカゴ市(イリノイ)
- ブリタニカ百科事典社(イリノイ)
- I.B.M.(コネチカット,イリノイ)
- アメリカン・エクスプレス(イリノイ)
- アレクサンダー・テクニク(デンマーク)
- DB国際貿易社(ニューヨーク,ドイツ)
- ノーザンパーLTD(イギリス)
- ノースカロライナ銀行(ノースカロライナ)
- 第1合同ナショナル銀行(ノースカロライナ)
- ハリス銀行(シカゴ)
- スタンダード連邦銀行(デトロイト,ミシガン)
- フィラデルフィア・ナショナル銀行
(ペンシルバニア)
- マニファクチャー銀行(デトロイト)
- シティー銀行(ニューヨーク)
- ワカウエスタン銀行(テキサス)
- 第1連邦ミシガン銀行(デトロイト)
- シアトル銀行(ワシントン)
- アメリカ・ナショナル銀行(イリノイ)
- パーミンハム・ブルームフィールド銀行
(ミシガン)



セオドロス・スタモスとのshow
P.T.エフスタヒウファインアート 1994
Show with Theodoros Stamos
P.T. Efstathiou Fine Art, New York City 1994

ゼネラル・モーターズ(ミシガン)
 トランクコ(テキサス)
 アトランティック・リッチフィールド社
 (カリフォルニア)
 シアーズ・ローバック社(シカゴ)
 シティコープ(ニューヨーク)
 USAトデイ新聞(イリノイ)
 AT & T(シカゴ)
 アークター出版社(イリノイ)

文 献

- 1973 ●サンケイ新聞 4月8日 展評 高橋 亨
 1975 ●『プリント アート』25号11月 展評 高橋 亨
 ●京都新聞 5月31日 東西版画家の個展
 展評 藤
 1976 ●『プリント アート』25号7月 展評 高橋 亨
 ●カタログ『アートナウ』兵庫県立近代美術
 館
 ●『美術手帖』7月号 展評 高橋 亨
 1977 ●『美術手帖』6月号 展評 高橋 亨
 1979 ●『美術手帖』5月号 展評 山脇一夫
 ●カタログ『第31回ボストン全米版画展』
 ブロックトン芸術センター
 (序文/ジーン・パロー)
 1980 ●カタログ
 『ファイン・アーツ・プリント・ワークス』
 カリフォルニア大学
 1981 ●『統計・社会学1つの道具』(ダクスベリー出
 版)表紙画
 ●カタログ『第33回ボストン全米版画展
 フィッチ・バーグ美術館』
 (序文/ ジェーン・ファーマー)
 ●ノースカロライナ・ニュースデイ 11月15日
 「芸術と作家」 マイケル・カンペン
 1982 ●ニューヨークタイムス 10月17日
 「空想の飛翔」
 ●アートスピーク 5月13日 展評
 シシリー・B.ファスレティン
 ●カタログ『キュー・ギャラリー』
 (序文/ シャロン・フレッシュャー)
 ●カタログ『アート・ワークス82』
 ブランダイズ大学
 (序文/ リバ・サンバーク)
 1983 ●カタログ
 『第8回ダラス大学全米プリント招待展』
 (序文/ ジャーゲン・ストラック)
 1985 ●ジャーナル・ニュース 11月1日
 作家の講演

- 『ヴィアーツ』No.1 ヨウ・アートギャラリー
 ●『数の分析』バーデン、フェアース
 (プリンデル・ウェーバー、シュミット出版)
 表紙画
 1986 ●読売新聞 6月11日
 「NYで海外の日本現代美術展」本池滋夫
 ●朝日新聞 5月6日 故郷で初の版画個展
 ●読売新聞 8月18日 「キャンパスの詩」
 ●『版画芸術』53号春 展評 高橋 亨
 ●カタログ『ヨウ・アートギャラリー』
 (序文/マイケル・ボンス・デレオン 高橋 亨)
 ●『版画芸術』54号夏 ニューヨークの夏
 アリソン・トールマン
 ●カタログ『海外の日本現代美術』
 ギャラリー・インターナショナル52
 (序文/ カズコ・ヒリヤー)
 ●カタログ『16回国際水彩画展』
 (序文/ ジョン・H.シェファール)
 ●『美術手帖』11月号 展評 杉浦邦恵
 ●『コンタクトII』冬 春号
 1987 ●カタログ『ナショナル・アートワークス』
 AAOギャラリー
 (序文/ ダグラス G. シェル)
 アルブライト・ノックス・ギャラリー
 ●ニューヨーク読売 9月17日 「極東より」
 ●『クリエイター・ハラジック』Vol.3
 「クリエイターズファイル」(序文/詩)
 リチャード・アミホ
 ●『美術手帖』12月 展評 杉浦邦恵
 ●『ジャパン・メイ』7月・8月号
 ニューヨークの作家
 ●『現代美術の断面』
 京都市国際芸術センター
 (序文/ タニ・あらた)
 1988 ●『プロビンスタウン・アーツ』1988年号
 ●アート・スピーク 11月1日 展評
 E.C.リフトン
 ●ニュージャージー・ウィークエンド・ピーコン
 7月11日 展評
 ●ジャパントイムス 8月17日
 「ニューヨークを住家とする日本人芸術家達」
 エドワード・M. ゴメス
 ●ニューヨーク日米 9月29日
 エドワード・モラン
 ●中国新聞 10月18日 「挑む」 川本一之
 1989 ●アート・スピーク 9月16日 展評
 ショーン・サイモン
 1990 ●アート・スピーク 9月19日 展評
 トニー・カバノフ
 ●『ニューヨーク絵画発展史』 市田幸治

- 『前微積分』ジェローム・E. コーフマン
 (P.W.S ケント出版)表紙画
 ●カタログ『Ge展』 Geグループ
 ●ニューヨーク日米 10月11日
 「大学アートギャラリーで野田正明個展」
 ●ジャパン・ニューヨーク
 ニューヨークアート事情』3・4月
 1991 ●『ニューヨーク・アート・レビュー』
 レス・クラント
 ●『波ひとつ』ジョン・アシュベリー
 (書肆山田出版)表紙画
 ●『ザ・ライフクリエイター』No.2
 ●『海外子女教育』4月号「体験のアート」
 ●カタログ『4人のニューヨーク・アーティスト』
 (仮題)「多様性の様々と調べ」
 (序文/ドナルド・カスピット)
 ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー
 (西武池袋)
 ●中国新聞 2月25日 できる「マサーキ」
 ●RSKラジオ 9月16日
 滝沢忠考のグラスの旅でいい話
 「野田正明展」
 ●産経新聞 10月1日
 シルクスクリーンに独自の抽象世界展開
 ●読売新聞 10月2日
 野田さん5年ぶり帰国展
 ●中国新聞 10月2日
 現代アートの多様性示す
 ●中国新聞 10月3日
 ニューヨークで活躍の野田さん
 ●中国新聞 10月6日 素直に感じ取って
 ●中国新聞 10月6日
 5年ぶり帰国し、版画展
 ●産経新聞 10月23日
 14年の集大成を披露
 ●中国新聞 10月29日
 自己主張を貫いた作品
 ●新潟日報 10月29日 ひとたち話
 ●中国放送、テレビ 10月29日放送
 井尾義信のコーヒーブレイク
 「画家・版画家 野田正明さん」
 ●毎日新聞夕刊 11月1日
 エネルギーと動の具現
 ●中国新聞 11月19日 町へ版画を贈る
 ●21世紀プリント 12月号 プリントランダム、
 虹川宏倫
 ●画集 野田正明作品集(阿部出版)
 The Works in New York 1980-1991
 ジェイン・ルービン、
 アレクサンドラ・モンロー、桑原住雄



UNTITLED
 Paper Sculpture
 1989
 40×85×37.5cm
 16×34×15"

- 1992 ●21世紀プリント 1,2月号
新しい時代は来るのだろうか、野田正明
- ニューヨーク日米新聞 1月16日 故郷へ錦
 - ニューヨーク読売新聞 1月16日 日本人アーティスト7人展
 - OCS News 1月24日 日本の現代美術7人展
 - ニューヨーク日米新聞 1月30日 アーティストと環境 野田正明
 - PARKWAY 2月号 ARTIST FROM NEW YORK, 川本悦子
 - 京都新聞 2月30日 New Yorkで日、韓、台合同展 梁瀬 薫
 - 日系アート 3月号 海外トピックス
 - 中国新聞 11月23日 ニューヨークで個展
 - OCS News 11月27日 アジア3 国の合同美術展開催
 - 東京新聞 12月3日 米国で作品展を同時開催
 - 菜の花さくら 阪田寛夫(講談社)表紙画
 - 人物往来記 アメリカドキュメントエッセイ 100選「アメリカが与えてくれたもの」野田正明 (UJP出版)
 - カタログ 野田正明 光と身振り(序文)ドナルド・カスピット) SPF USA ギャラリーライブラリー (ワシントンDC)
 - 統計学 メンデンホール、レイマス、ピーパー(ダクスベリ出版)表紙画
 - 原価計算 ハーシュ コウダーバック (サウスウエスタン出版)表紙画
 - 中国新聞 エッセイ by 野田正明 「ニューヨーク便り」 92年2 月より アメリカンアートシーンの紹介と共にメジャーアーティスト・キュレーターをインタビュー 95年2月迄 29回連載
- 1993 ●芸術新潮 2月 N.Y.在住作家による 日、中、韓合同絵画展 近藤竜男
- 美術手帳 3月 ビジョン イン・ピトウィーン、杉裏邦恵
 - インサイド、アウトサイド、ジャパン 4月、海外に移住したアート ロバート チャペタ (エッセイ)
 - 朝日新聞 5月7日 地球大通り 画家 野田正明さん、富永伸夫
 - 中国新聞 5月8日 11日からプレ・ア大会美術展
 - 中国新聞 5月12日 東西の文化描いた19点
 - 日本テレビ放送網 5月15日放送

- 美の世界「自由飛翔」野田正明
インタビュー by 井田由美
- 中国新聞 5月17日 アジア4ヶ国のN.Y.在住画家が故国巡回展
 - 中国新聞 8月5日 版画家 野田正明さんの人と作品
 - 広島放送テレビ 8月12日放送 ニューヨークアートシーン 野田正明 無限への飛翔
 - 月刊美術 9月号 VISIONS IN BETWEEN (韓国)
 - 雄獅美術 9月号 国際進出、NYアジア作家展 (エッセイ) エレノア ハートニー (台湾)
 - インゲルハイマー 1月22日 4月23日 7月24日 10月25日 表紙画 (インゲルハイマー出版)
 - 抽象代数学への入門、ケイス・ニコルソン (PWS Kent出版)表紙画
 - コンピューター科学使用への入門 エゲン、エゲン (PWS 出版) 表紙画
 - アート・マター 1月 小品展、アートギャラリー500 (展評) ウィリアム、サウスウエル
- 1994 ●国立国際美術館月報 2月 ニューヨーク断想 (エッセイ) 野田正明
- 中日新聞 5月12日 ニューヨーク通信 (展評) 青木 博
 - アートニュース 9月 インターナショナルニューヨーク (展評) 野田正明
 - アートニュース 10月 野田正明 ギャラリーサイクラデス (展評) ロバート S. ピアンキ
 - アートニュース 10月 日本の現代美術を世界へ (エッセイ) 野田正明
 - 月刊ギャラリー 11月 はじめてのニューヨーク (エッセイ) 白影 眩
 - P.T.エフスタフェ ファインアート 10月 序文 ロバート S. ピアンキ
 - ハナ・ケント ギャラリー 12月 東西交流展 序文 エレノア・ハートニー
 - カタログ SAGA 現代アメリカ版画家 (序文) マイケル・デサーボ ペトラ・テン・チュー
 - カタログ ショーンズカリー フジテレビギャラリー

- (エッセイ) 野田正明
 - カタログ 間において見えるもの、タイペイギャラリー (エッセイ) エレノア・ハートニー 序文 シューピン・リヤオ
 - カタログ 3人の抽象表現、ギャラリーサイクラデス (序文) ロバート S. ピアンキ
- 1995 ●産経新聞 2月19日 震災チャリティー展
- 東京新聞 2月21日 画廊でチャリティー展
 - Zig Zart マガジン 6月号 日本の画家 (展評) フレデリック・アルトマン (フランス)
 - 伊豆新聞 8月4日 版画からはじめる米NYの緊張感
 - 中国新聞 8月23日 ヨーロッパで初個展
 - SAGAレター 春・夏号 12月 東西版画交流展 (展評) ゲイリー・セーファー
 - ジョン・キャラハンギャラリー 現実の抽象化 (序文) ジョン・キャラハン
 - ニューヨークのアート& ギャラリース ニューヨークの日本人画家 市田幸治著 (土曜出版)
 - カタログ 第7回 ふくやまアートプロジェクト・祈り (序文) 赤木博典、石井 太
 - カタログ・2つの視点'95展 (大阪芸術大学出版) (序文) 高橋 亨
 - 画集 野田正明「ねじられた 循環」 ギャラリーサイクラデス (フランス) (序文) フレデリック・アルトマン アンドレ・ベルレー ロバート S. ピアンキ
- 1996 ●読売アメリカ 11月1日 邦人美術家26人展
- PARK WAY 10-12月「永遠の友」川本悦子
 - UNIXへの入門書、Xとインターネット、ポール S. ワン (PWS 出版) 表紙画
 - 商工ふくやま 序文 大前勝信 表紙画 (福山商工会議所出版)
- 1997 ●中国新聞 4月17日 空へのあこがれが原点 (ニューヨーク共同)
- 下野新聞 4月20日 飛翔をイメージ (ニューヨーク共同)
 - 京都新聞 4月22日 飛翔をイメージして (ニューヨーク共同)
 - 信濃毎日新聞 4月25日 飛翔のイメージ、スタンドグラスで (ニューヨーク共同)
 - 東京新聞 4月20日 友、遠方より来る、



AFAR
Paper Sculpture
1988
80×37.5×30cm
32×15×12"

- 田島 力
- 京都新聞 6月18日
京阪宇治ビル 8月5日 OPEN
 - RCC ラジオ 8月4日 ステンドグラス、
リンリン情報
 - ビデオ 8月4日 ステンドグラス除幕式
“飛翔” 広島テレビ
 - 京都新聞 8月5日 京阪宇治ビル完成
 - 朝日新聞 8月7日 京阪宇治ビルオープン
 - 中国新聞 8月8日
ステンドグラス壁画が完成
林 青史
 - 朝日新聞 8月19日
異文野と共同作業、新たな表現を経験
 - 京都新聞 8月19日
観光宇治の飛翔を期待 仁田一明
 - TVS テレビ 8月15日放送
花まるマーケット
緒方拳、友人のステンドグラスを紹介
 - グラフ京阪 秋号 京阪宇治ビルがオープン
 - 月刊美術 11月号
在米の野田正明さん原画による
宇治のステンドグラス
 - レスコバック国際版画ビエンナーレカタログ
創造と詩の類似 序文 サダン、マルコピック
- 1998 ●朝日新聞 1月1日 新春特集 カラー半頁
光の波は時を越えて(エッセイ)野田正明
- SAGALレター 春号 1人の人間の経験
(エッセイ)スーザン E. カーターカーター
 - カタログ
ニューヨーク版画協会のアーティスト
クラスデールギャラリー(ニューヨーク)
 - カタログ 備後の輝き展、ふくやま美術館
(序文)石井 太
 - SAGALレター 夏号
新ステンドグラスプロジェクト
野田正明 京都へ設置(エッセイ)長沢泰子
- 1999 ●中国新聞 4月27日
羽ばたく生命郷土にオブジェ
- PARKWAY 7-9月号 故郷へモニュメント
川本悦子
 - OCS ニュース 7月18日
ペインティングと彫刻
 - 読売アメリカ 7月2日
無限の空間を表現した絵画、彫刻
 - カタログ 20世紀の証明展 大阪芸術大学
 - カタログ 30/30
30年間のアートスチューデントリーグ卒業生
選抜30人展(アートスチューデントリーグ)
(序文)ジョーン キブラー・パム コープ
- カタログ ササビーズ
アレン・ギンズバークと友人
 - カタログ 第57回オーデュボン アーティスト
 - 70th アートギャラリー 6月
ペインティングと彫刻
(序文)ロバート.S.ピアンキ
- 2000 ●版画芸術 107号 野田正明展 P.162.
裏表紙
- 画集 野田正明 ニューヨークの息吹き
1991-2000
ロバート S.ピアンキ(発行.P.T.エフスタフ
ファインアート ゾート プロダクション)
 - 毎日新聞 5月9日
モニュメント「飛翔II~時空を越えて」制作
 - 山陽新聞 5月18日 限りない空間表現
 - 産経新聞 5月19日 野田さんの作品設置
 - 中国新聞 5月20日 古里に翼
 - 読売新聞 5月20日 羽ばたけ未来に
 - 新市ネットピックス 5月23日
町の東玄関を飾るオブジェ完成
戸手出身の野田正明さん制作
 - 山陽新聞 5月25日 彫刻や水彩画54点
 - 中国新聞 5月26日 生命力描く
 - 朝日新聞 5月26日
生命の躍動、平面、立体で表現
 - 中国新聞 5月27日
浮遊感と躍動感、奥行きある空間
長曾我部 誠
 - 毎日新聞 5月28日
生命力の力を表現 山中尚登
 - 広報しんいち 6月 飛翔II
時空を越えて 完成
 - 21 Prints 夏号
無限の空間に遊ぶ、浮遊感をコントロール
その渦巻きの中で「生命」を実感する
室伏哲郎 P.96. 97. 117
 - 版画芸術108号
アートを指し示す自己のコンパス、
ニューヨーク東京通信
P.82-89 野田正明、松山龍雄
 - 中国放送、テレビ 6月1日放送
ニュース、ブリッジ 野田正明展
 - 中国新聞 6月15日
社会と関わるアートを。長曾我部 誠
 - 展評 004.夏号
無限の空間の中の躍動するいのち
P.93-94 長曾我部 誠
 - PARK WAY 7-9月号 From the Editor
川本悦子
 - 360°のニューヨーク。日影 眩
- ギャラリーステーション発行
- 中国放送 テレビ 9月14日放送
特集 野田正明
故郷のプロジェクト
 - 備後美術 13 秋号 野田正明さん P.4-9
新市モニュメント完成 P.16・17

Education:

- 1969-1972 ●Osaka University of Arts, Japan
 1977-1980 ●The Arts Students League of New York (Elizabeth Carstairs Scholarship)

Background:

- 1949 ●Born, Hiroshima, Japan
 1977 ●Left Japan for New York, NY, United States of America

Solo Exhibitions:

- 1972 ●Shinanobashi Gallery, Osaka, Japan
 1973,74 ●Miyazaki Gallery, Osaka
 1975 ●Hanga Gallery, Kyoto
 1975,76 ●Shinanobashi Gallery
 1976 ●Miyazaki Gallery
 ●Shinanobashi Gallery
 1979,80 ●Shinanobashi Gallery
 1981 ●Gallery Le Coin, Osaka
 1982 ●A Clean, Well-Lighted Place, Inc., New York, NY
 ●Miriam Perlman Gallery, Chicago, IL
 ●Kew Gallery, New York, NY
 1984 ●Miriam Perlman Gallery, Chicago, IL
 ●Belle Arts Gallery, Nyack, NY
 1985 ●Galley Downtown, Fort Worth, TX
 ●Belle Arts Gallery, Nyack, NY
 ●Yoh Art Gallery, Osaka
 1986 ●Gallery Hiro, Tokyo
 ●Osaka Contemporary Art Center, Osaka
 ●Yoh Art Gallery, Osaka
 ●Gallery Access Act, Kyoto
 ●Modern Art, Hiroshima
 1987 ●Gallery Le Coin, Osaka
 ●Gilbert Lubner Gallery, Philadelphia, PA
 1988 ●Wenniger Graphics, Boston, MA
 ●Wenniger Graphics, Provincetown, MA
 ●Mari Gallery, Westchester, NY
 1989 ●Wenniger Graphics, Boston, MA
 ●Wenniger Graphics, Provincetown, MA
 1990 ●Gilbert Lubner Gallery, Philadelphia, PA
 ●Artist Gallery, New York, NY
 ●Seton Hall University Art Gallery, NJ
 1991 ●Gallery Hiro, Tokyo
 ●Garando Gallery, Nagoya
 ●Yoh Art Gallery, Osaka
 ●Hiro Chikashige Gallery, Okayama
 ●Suzukawa Gallery, Hiroshima
 ●Fukuyama Museum of Art, Hiroshima
 ●Tenmaya Bijutsu Gallery, Fukuyama, Hiroshima
 1992 ●Gallery Seijyo, Sendai
 ●Gallery APA, Nagoya
 ●SPF USA, Gallery and Library, Inc., Washington, DC
 1995 ●Galerie Les Cyclades, Antibes, France
 ●John Callahan Gallery, Boston, MA
 ●Gallery Hiro, Izu Kogen

- 1999 ●70th Art Gallery, New York, NY
 2000 ●Gallery Hiro, Tokyo
 ●Gallery Fine Art, Osaka
 ●Tenmaya Bijutsu Gallery, Fukuyama, Hiroshima
 ●Suzukawa Gallery, Hiroshima
 ●Bougainvillia Gallery, Greece
 ●Art Com Gallery, Osaka
 2001 ●Art Com Gallery, Osaka

Awards:

- 1976 ●Osaka Mayor Prize — The 26th Exhibition of Modern Art, Tokyo, Kyoto, Osaka, Fukuoka, (Municipal Museums).
 1979 ●The Carl J. Blenner Prize — 78th Annual Exhibition, New Haven Paint and Clay Club, CT.
 ●Purchase Award — 31st Boston Printmakers Annual Exhibition, MA.
 1980 ●Purchase Award — Charlotte Printmakers 4th Annual Eastern States Print Exhibition, NC.
 1982 ●Purchase Award — 3rd Annual Alabama Works on Paper Exhibition, Travelling Show — The Kennedy-Douglas Center for the Arts in Florence, Alabama;
 Columbus College, Georgia; The Alabama School of Fine Arts, Birmingham; University of North Georgia, Dahlonega; Atmore Council of Fine Arts, Atmore;
 Auburn University in Montgomery.
 ●Fourth Prize — The 9th International Dogwood Festival Art Show, Atlanta Playhouse Theatre & Georgia Tech Student Center Gallery, Atlanta, GA.
 1983 ●Purchase Award — The Active Members Exhibition, New Haven Paint & Clay Club, CT.
 1984 ●Honorable Mention Award — 11th International Dogwood Festival Art Show, GA.
 ●Second Prize — Carrier Art Festival, (Organized by Carrier Foundation Auxiliary) Gymnasium, NJ.
 ●Second Prize — 10th Annual International Miniature Art Show, Miniature Art Society of Florida, Inc. FL.
 ●Second Prize — 9th Annual American National Miniature Show, Laramie Art Guild, WY.
 ●Stella Drabkin Memorial Award — 40th American Color Print Society Exhibition, Abington Art Center, PA.
 ●Third Award — 85th Annual Watercolor Exhibition, The National Art Club, New York, NY.
 1985 ●Purchase Award — 12th International Dogwood Festival Art Show, GA.
 ●Honorable Mention Award — 7th Annual International Show, Montana Miniature Art Society, Castle, MT.
 ●Migration '85 Traveling Exhibit.
 1986 ●Third Award — The 15th National Small Painting Show, New Mexico Art League, NM.
 ●Purchase Award — Heart of America National Printmaking Exhibition, Columbia Museum of Art, MO.
 ●Honorable Mention Award — 13th International Dogwood Festival Art Show, GA.
 ●First Award — First Annual International Miniature Art Show, Georgia Miniature Art Society, Atlanta, GA.
 1989 ●First Award — 16th International Dogwood Festival Art Show, GA.
 ●Second Award — 11th Annual International Show, Montana Miniature Art Society, Castile Gallery, MT.



横の回折
 HORIZONTAL DIFFRACTION
 Mixed Media on Canvas
 1991
 122×178cm
 48×70"

- Honorable Mention Award — 1989 National Art Show, North Valley Art League, CA.
- 1992 ●Third Prize — International Competition, the IWA Foundation, Czechoslovakia.
- 1999 ●The John Taylor Arms Memorial Award — Audubon Artist 57th Annual Exhibit, New York
- 2000 ●Purchase Award- Society of American Graphic Artists 68th National Members Exhibition, Stephen Gang Gallery, New York, N.Y.

Other Shows:

- 1982 ●International Aerial Art Orchestration, (Sky Sculpture), Organized by the Rainbow Art Foundation, The Sheep Meadow, Central Park, New York, NY.

Projects:

- 1997 ●Two pieces of 8 by 20feet stained glass permanently installed Keihan rail road at Uji Station in Kyoto, Japan. Two stained glass works, on the first and second floor at Uji Station. The works were completed August 4, 1997. First floor title Coming and Going, and Vicissitude, Second floor title, Rising to the Firmament.
- 2000 ●Sculpture Monument installed at Shinichi in Hiroshima. 20×10×10feet Stainless Steel and White Granite Stone Base. The works was completed May 19, 2000. Title Perpetual Flight II Beyond Time and Space.

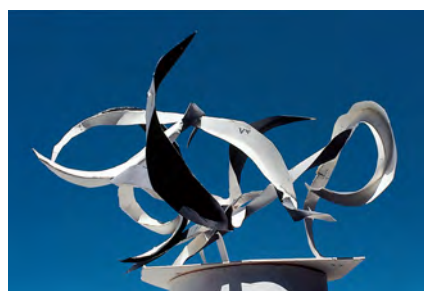
Professional Memberships:

- Society of American Graphic Artists: Council (New York, NY)
- Audubon Artist: Director (New York, NY)
- Boston Printmakers Association (Boston, MA)
- The Print Club of Albany (Albany, NY)
- The Graphic Arts Council of New York (New York, NY)

Other Exhibitions:

- 1971 ●Three Man Show, Yatsui Gallery, Osaka, Japan
- 1972 ●Paper Plan Exhibition, Shinanobashi Gallery, Osaka
- 1972-73 ●Print Art Festival, Miyazaki Gallery, Osaka
- 1972-77 ●All Osaka Print Exhibition, Miyazaki Gallery, Osaka
- 1975 ●Ge Exhibition, Osaka Municipal Gallery
 - The Exhibition of Silk Screen Print, Fine Art Gallerym Osaka
 - Contemporary Print Art Exhibition, Osaka Municipal Gallery
- 1976 ●Art Now (Organized by Hyogo Modern Art Museum), Kobe, Japan
 - Battle Royal Art Show, Osaka Municipal Gallery
 - Kansai Exhibition of Modern Art, Nakanoshima Gallery, Osaka
 - 3rd Kansai Exhibition of Modern Art, Hyogo Modern Art Museum, Kobe
- 1977 ●Contemporary Print Art Exhibition, Osaka Municipal Gallery
 - Image of the City Exhibition, Kan Gallery, Kyoto
 - The 13th Contemporary Art Exhibition of Japan (Organized by Mainichi Press), Tokyo, Kyoto, (Municipal Museum)
- 1978 ●Opening Exhibition, The Flax Gallery, New York, NY- Print Exhibition, Art Student League of New York at the Diamond Art Gallery, Michigan.
 - 11th Annual Juried Graphics Exhibition, Princeton Art Association, NJ
 - 2nd Annual Print Exhibition, Charlotte, NC
- 1978-84 ●The Print Show, Art Students League, New York, NY

- 1979 ●7th International Miniature Print Competition & Exhibition, Pratt Graphic Center, New York, NY. Traveling Exhibition Itinerary '79 — '81
 - 3rd Annual Print Exhibition, Charlotte, NC
 - 21st Annual Exhibition of Print and Drawing, Oklahoma
 - Art for Public Places, Sagnaw Art Museum, Mott Community College, Miriam Perlman Gallery, Flint, MI
 - Art for Collectors, Ella Sharp Museum, Jackson, MI
 - The Miniature Show, Ginn Gallery, MA
 - Contemporary Japanese Prints, Azuma Gallery, New York, NY
 - "Japan Today," Contemporary Japanese Art Exhibition, World Trade Center, New York, NY
- 1980 ●Multiple '80, National Juried Exhibition, New Orleans, LA
 - Mini International Print Biennial, Miami, FL
 - 13th National Print Exhibition, The Silvermine Guild of Artists, Inc., CT
 - 15th National Print Exhibition, Potsdam Print, State University College, NY
 - 7th International Dogwood Festival Art Show, Atlanta, GA
 - 6th International Exhibition of Graphic Art, Frenchen, West Germany
 - The Fine Arts Print Works, California State University, Chico, CA
 - Wesleyan International Exhibition of Prints & Drawings, Wesleyan College, Macon, GA; Travel Exhibition 1981 — Birmingham, AL; Laurinbury, NC; LaGrange, GA; The University of Mississippi, MS; Lexington, KT; Murry State University, Murray.
 - 1st International Miniature Print Exhibition, Seoul, South Korea
 - 6th Independent Exhibition of Prints in Kanagawa (Organized by Kanagawa Prefectural Gallery, The Press of Kanagawa), Yokohama, Japan
 - 56th Annual International Competition at the Print Club, Philadelphia, PA; Cherry Hill, NJ.
- 1981 ●Paper as a Surface, Miriam Perlman Gallery, Chicago, IL
 - Original Print Show, International Art Contact Gallery, New York, NY
 - Other Exhibitions (cont.):
 - Printmakers — New Offering, Community Gallery New York, NY
 - Boston Printmakers 33rd National Exhibition, Fitchburg Art Museum, MA
 - The 39th National Exhibition of the American Color Print Society, Philadelphia Art Alliance, PA
 - V Biennial International de Art Valparaiso, Chile
 - 57th Annual International Competition at Print Club, Philadelphia, PA
- 1982 ●The Gallery of the University of Delaware, Newark, NJ
 - Two Person Show, Bell Arts Gallery, Nyack, NY
 - 24th Annual Exhibition of Paint & Drawing, Oklahoma
 - 81st Annual Art Exhibition, the New Haven Paint & Clay Club, CT
 - Annual Competitive Graphics Exhibition 1982, Tempo Gallery, WI
 - 1st Annual Artlink National Print Competition, Fort Wayne, IN
 - It Can't Be Done on Canvas (Organized by Miriam Perlman Gallery). An exhibit in honor of the 25th Anniversary of the University of Michigan — Flint
 - Contemporary Japanese Graphic Art Galerie Autonom, Berlin, Germany
 - Why the Print is an Original Childrens Museum, Minneapolis, MN
 - 47th Annual National Art Exhibition, Cooperstown, NY
 - The 4th Annual International Art Exposition, New York Coliseum, NY
 - Color in Motion, Wenniger Graphics, Boston, MA
 - 59th SAGA National Print Exhibition, The Cooper Union, New York, NY
- 1983 ●Rockford International Biennial '83, Rockford College, IL
 - Cabo Frio International Print Biennial, Brazil
 - Annual Competitive Graphics Exhibition, Tempo Gallery, WI
 - Three Person Show, Gallery 500, Elikin Park, PA
 - 14th Annual Print Exhibition, Silvermine Guild Center for Art, CT



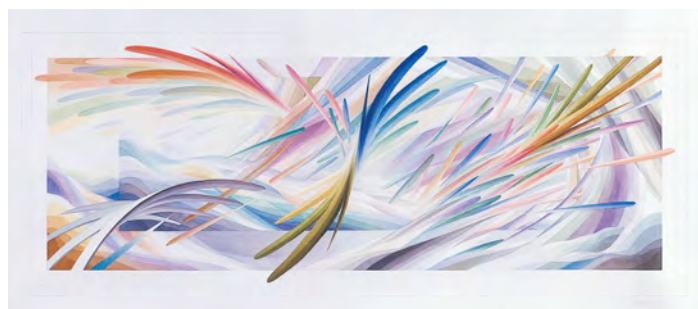
UNTITLED
Paper Sculpture
1994
32.5×37.5×22.5cm
13×15×9"

- The 8th University of Dallas National Invitational (Organized by the University of Dallas, TX), Traveling Show, 1984 — Lamar University, Beaumont; Angelo State College, San Angelo; Lufkin Historical Society, Lufkin; Midwestern State University, Wichita Falls; Brown-Lupton Gallery, Texas Christian University, Fort Worth; Warehouse Center of Living Arts, Corsicana; Texas A & I University, Kingsville.
- 11th Annual Show, "Big 7 Small," Terrain Gallery, New York, NY
- Group Show, Galerie Autonom, Berlin, Germany
- 1984 ●8th Annual Small Works Show, 80 Washington Square East Galleries, New York University, New York, NY
- Aubudon Artists 42nd Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY
- 83rd Annual Art Exhibition, The New Haven Paint & Clay Club, CT
- 10th International Print Biennial, Cracow, Katowice, Poland
- 49th Annual Art Exhibition, Cooperstown Art Association, NY
- Ge Kyoto Exhibition (Organized by Kyoto Museum), Kyoto, Japan
- The G.A.L. 15th Annual Fine Arts Competition, Greensboro Artist League, NC
- 6th Annual Exhibition Pennsylvania Society of Watercolor Painters, Shippensburg University Huber Art Center, PA
- The New Haven Paint & Clay Club Members' Show, CT
- 4th Mini Print Internacional de Cadeques, Taller Galeria Fort, Barcelona, Cadaques. Cata Lonia, Spain
- Invitational Holiday Gift Show, Abington Art Center, PA
- 1986 ●Juried Show '85, Summit Art Center, NJ
- 6th Annual Invitational Print Show, Artist Signature Gallery, CT
- Group Show at Civilization (organized by the 5 & Dime), New York, NY
- 4th Annual Print National, Payne Gallery at Moravin College, PA Other Exhibitions
- 1985 ●15th Annual International Exhibit, Louisiana Watercolor Society's International Trade Mart, New Orleans, LA
- Audobon Artists 43rd Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY
- 4th International Exhibition, "Small Forms of Graphic Art, Poland Lodz '85," Gallery of Art Exhibition, Buesu, Poland
- The Biggest Little Art Show in Florida, Siesta Key Gallery, Florida
- Ybor National Print Competition, Ybor City of Commerce, Florida
- 16th International Biennial of Graphic Art in Ljubljana, Museum of Modern Art, Yugoslavia
- 1985 International Exhibition, San Diego Watercolor Society, Grossmont College Art Gallery, CA
- September Competition, Alexandria Museum, LA
- Il Cabo Frio International Print Biennial, Brazil
- 7th Annual Exhibition, Pennsylvania Society of Watercolor Painters, The Shardin Art Gallery of Kutztown University, PA
- 86th Annual Open Watercolor Exhibition, The National Art Club, New York, NY
- Group Show, Watanabe Gallery, Hiroshima, Japan
- The Rivington School, No Se No, New York, NY
- 2nd International Biennial Print Exhibit: 1985 Roc, Taipei Fine Art Museum, Taiwan
- 1986 ●PAPERART — An Open International Exhibition of Work on Paper, The PAPERART Documentation Center, Bahia, Brazil
- 16th Annual International Exhibit, Louisiana Watercolor Society's, LA
- 11th International Print Biennial, Cracow, Katowice, Poland
- The 8th International Art Exposition, Convention Center, New York, NY
- Contemporary Japanese Art Created in Other Land, Gallery International 52, New York, NY
- 8th Annual Exhibition, Pennsylvania Society of Watercolor of Watercolor Painters, Core B. Miller Gallery, PA
- 1st Annual International Miniature Art Exhibition, Del Bello Gallery, Toronto, Canada
- 1987 ●International Group Exhibition, Gallery International 52, New York, NY
- Artista on the Cutting Edge, Miriam Perlman Gallery, Chicago, IL
- Fine Art Show, (organized by Carrier Auxiliary) Administration Gallery, NJ
- Benefit Show, Associated American Artist, New York, NY
- Clemson National Print and Drawing Exhibition, Clemson University, Rudolph E. Lee Gallery, SC
- Great Graphics, Gallery International 52, New York, NY
- 17th International Biennial of Graphic Art in Ljubljana, Museum of Modern Art, Yugoslavia
- Special Edition, A. A. O. Galleries, Buffalo, NY
- 14th International Dogwood Festival Art Show, Atlanta Playhouse Theatre and Georgia Tech Student Center Gallery, GA
- From the Far East, wuth C. J. Yao and John Pai, Souyun Yi Gallery, New York, NY
- 32nd CWAJ Print Show, Tokyo American Club, Tokyo, Japan
- 1988 ●Japanese Printmakers in New York, Consulate General of Japan, New York, NY
- Ge Kyoto Exhibition, (Organized by Kyoto City Museum), Kyoto, Japan
- The 31st Annual Exhibit of Paintings and Sculpture, Sidney Rothman Gallery, NJ
- 12th International Print Biennial, Cracow, Katowice, Poland
- Silk Screen Now, Art Space SAGA, Kyoto, Japan
- 33rd CWAJ Print Show, Tokyo American Club, Tokyo, Japan
- A Divergent Approach, The Pen and Brush Club, New York, NY
- Works on Paper and Sculpture, Juried by Barbara Haskell at the Whitney Museum of American Art, Clary Miner Gallery, Buffalo, NY
- American Color Print Society National Members' Exhibition, The Woodmere Art Museum, Philadelphia, PA
- 1989 ●The Boston Printmakers 41st North American Print Exhibition, The Art Institute of Boston, Boston, MA
- The International Miniature Print Biennial, John Szoke Gallery, New York, NY. Traveling Exhibition Itinerary, '89 — '91.
- Man and His Space, Lever House, New York, NY
- 5th International Print Biennial Varna, Varna Art Gallery, Bulgaria
- International Exhibition of Artwork on Paper, University Art Galleries, The University of South Dakota, SD; Mind's Eye Gallery, Dickinson State University, ND
- Greater Midwest International IV, Central Missouri State University Art Center Gallery, MI
- National American Museum Art Show, Lever House, New York, NY
- 34th CWAJ Print Show, Tokyo America Club, Tokyo, Japan
- 18th International Biennial of Graphic Art in Ljubljana, Museum of Modern Art, Yugoslavia
- Works of Member of Atelier Ponce de Leon, Doma Gallery, New York, NY
- 9 Japanese Artists, Port Washington Public Library, NY
- Boston Printmakers Members Show, Duxbury Art Complex Museum, MA
- 4th International Biennial Print Exhibit, Taipei Fine Art Museum, Taiwan
- 1990 ●Japanese Cultural Festival, World Trade Center, New York, NY
- 35th CWAJ Print Show, Tokyo American Club, Tokyo, Japan
- Carrier Fine Art Show, Administration "Gallery," NJ
- Ge Kyoto Exhibition, Kyoto City Museum, Kyoto, Japan
- Audubon Artist 48th Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY



天空昇
 RISING TO THE FIRMAMENT
 Water Color Color Peacil
 1996
 ステンドグラス原画 [上段2Fの絵]

- Three New York Artists, D. D. Art Space, Taipei, Taiwan
- 2nd Annual Exhibition 9 Japanese Artists Living & Working in New York, The Pen & Brush Club, New York, NY
- Japanese Art After the War, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima, Japan
- 1991 ●Audubon Artists 49th Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY
- Carrier Fine Art Show, Administration Gallery, NJ
- The 7th International Graphic Exhibition, Catalina, Italy
- Four New York Artists: Robert Kushner, Daniel Gendron, Chihung Yung, and Masaaki Noda, Seibu Contemporary Art Gallery, Tokyo, Japan
- Concept that Continue, Miriam Perlman Gallery, Chicago, IL
- 19th International Biennial of Graphic Art in Ljubljana, Museum of Modern Art, Yugoslavia
- The New Collections, Yamanashi Prefecture Museum of Art, Yamanashi, Japan
- 64th SAGA National Print Exhibition, Lever House, New York, NY
- 1992 ●Audubon Artist 50th Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY
- 19th International Dogwood Art Exhibition, GA
- 10th Carrier Fine Art Show, Administration Gallery, NJ
- Art Asia, The Emerging Collector, New York, NY
- Aspects of Flowers, Lever House, New York, NY
- 1992 ●Group Show, Tenri Gallery, New York, NY
- Man Ray, Tapies, Pomodoro, Masaaki Noda, Galerie Les Cyclades, Antibes, France
- International Art Part 1, Seibu, Tokyo, Japan
- Visions in Between, Ise Art Foundation, New York '93 — '94 Traveling Exhibition, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima, Japan; Walker Hill Museum of Art, Seoul, South Korea; Park Ryu Sook Gallery, Seoul, South Korea; New Trends Gallery, Taiwan; Howard Salon, Taipei, Taiwan; G Zen Art Gallery, Taiwan; Taipei Gallery, New York
- 1993 ●Audubon Artist 51st Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY
- 65th SAGA National Print Exhibition, New York
- "Motion" Wenniger Graphics, Boston, MA
- 38th CWAJ Print Show, Tokyo American Club, Tokyo, Japan
- National Juried Exhibition, Juror: Donald Kuspit, Gallery 84, New York, NY
- Boston Printmakers Members Show, Duxbury Art Complex Museum, MA
- 7th International Print Biennial Varna, Varna Art Gallery, Bulgaria
- Small Works Show, Gallery 500, PA
- 1994 ●Theodore Stamos, Jakob Bill, Masaaki Noda, Galerie Les Cyclades, Antibes, France
- Audubon Artist 52nd Annual Exhibition, National Art Club, New York, NY
- The Artist Members Spring Exhibition, The Gallery at the Market Theatre, Albany, NY
- NICAF Yokohama '94, International Contemporary Art Fair, Yokohama, Japan
- Contemporary American Printmakers, Thomas J. Walsh Gallery, CT
- Exhibition from the Collections, Osaka Contemporary Art Center, Osaka
- International Triennial of Graphic Art, Bitoa, Republic of Macedonia
- International Print Triennial '94, Cracow, Poland
- SAGA, The Northwest Print Council, Union Station, Portland, Oregon
- "Art-Phitheater" Hans Hinterreiter, Theodoros Stamos, Masaaki Noda, P. T. Efstathiou Fine Art, New York
- California Meets New York, Haener-Kent Gallery, New York, NY
- 1995 ●International Print Exhibition, Adair Margo Gallery, El Paso, TX
- Western Art Charity, Gallery Hiro, Tokyo, Japan
- Two Point View, Bijutsu Salon, Hanku Dpt., Osaka, Japan (organized by Osaka University of Arts)
- Printmaking of the Far East, Municipal Gallery Bielsko-Biala, Poland
- Invitation "8th International Print Biennale-Varna '95," Varna, Bulgaria
- Graphic Constellation '95, Graz, Australia
- Intergraphia '94- World Award Winners Gallery, Leuven, Belgium
- The 7th International Biennial Print & Drawing Exhibit, Taipei Fine Arts Museum, Taiwan
- 19th National Triennial Print Exhibition, Schenectady Museum, NY
- A Selection of Recent Prints, Lore Degenstein Gallery, PA
- Light in August, John Callahan Gallery, Boston MA
- Group Exhibition, Galerie les Cyclades, Antibes, France
- Audubon Artist 53rd Annual Exhibition, National Art Club, NY
- The 7th Exhibition of Fukuyama Art Project Prayer, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima, Japan
- 1996 ●East/West Print Exchange Exhibition, Kala Institute, CA; Olive Hyde Art Gallery, CA; Norwork Community Technical College Art Gallery, CT; 479 Gallery, New York, NY
- Art Exhibition of Japanese Artists, Japanese American Association, New York, NY
- 54th Audubon Artist, Federal Hall, New York, NY
- Jassie's Benefit Art Show, Ise Art Foundation, New York, NY
- 4th Biennial of Graphic Art Beograd '96 International Exhibition, Yugoslavia
- SAGA 65th National Print Exhibition, Federal Plaza, New York NY
- Japanese Prints and Contemporary Art, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima, Japan
- 1997 ●International Print Triennial '97, Cracow, Poland
- Painting of Fukuyama, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima, Japan
- 55th Audubon Artist, The Samagundi Club, New York, NY
- International Juried Show, New Jersey Center for Visual Arts, NJ
- UNIS Community Art Exhibit, United Nations International School, New York, NY
- The Boston Printmakers Members' Show, Duxbury Art Complex Museum, Boston
- International Biennial of Small Format Print Leskovac '97, Yugoslavia Art Gallery "Sunce," Yugoslavia
- Art Exhibition of Japanese Artist, Japanese American Association, New York, NY
- The 66th National Print Exhibition, Nabisco Headquarters Gallery, NJ
- 1998 ●Stockton National Exhibition, The Haggin Museum, Stockton, CA
- The Printmaker, Zullo Gallery, Medfield, MA
- SAGA, Krasdale Art Gallery, Bronx, NY
- Surface and Diversity, Housatonic Museum of Art Bridgeport, CT
- 5th Annual International Miniature Art Show, Casper, WY
- 16th Annual International Juried Show, Rosewell Fine Arts, League, Inc., Rosewell Museum and Art Center, NM
- 10th Annual International Juried Show, New Mexico Miniature Arts Society, Inc., Rosewell Museum and Art Center, NM
- Washington International Print Fair, John Callahan Gallery, Georgetown, Washington, DC
- 20th National Print Exhibition, Schenectady Museum, Schenectady, NY
- 22nd National Print Biennial 1998, Silvermine Guild Galleries, Silvermine Guild Arts Center, CT
- Point, Line and Mass, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima, Japan
- 56th Audubon Artist, The Salmagundi Club, New York, NY
- Artists of Graphic Arts Council of New York, Krasdale Gallery, White Plains, NY



去来・流転
COMING AND GOING AND VICISSITUDE
Water Color Color Pencil
1996
ステンドグラス原画 [下段1Fの絵]

- Art Exhibition of Japanese Artists, Japanese American Association, New York, NY
- A Holiday Invitational, Ceres Gallery, New York, NY
- Group Show, 70th Art Gallery, New York, NY
- 1999 ● 44th CWAJ Print Show, Tokyo American Club, Tokyo, Japan
- Poem of Flower, Fukuyama Museum of Arts, Hiroshima, Japan
- SAGA 69th National Member's Exhibition, Prince Street Gallery, NY
- Proof of 20th Century. Organized by Osaka Museum of Arts, ABC Gallery
- 10th International Exhibition Small Graphic Forms, Miejska Galeria Sztuki, Poland
- Thirty Works by Art Students League of New York Alumni 1965 – 95, Art Student League, New York, NY
- White and Black, Fukuyama Museum of Art, Hiroshima International Print Biennial Varna '99, Varna, Bulgaria
- Allen Ginsberg and Friends, Southby's, New York, NY
- 2000 ● Artist Member's Small Work Exhibition, The Print Club of Albany, Lulu Gallery, Albany, NY
- Group Exhibition, Studio B Fine Art Gallery, Queens, N.Y.
- Williamsburg Bridges Japan, Williamsburg Art & Historical Center Brooklyn, New York,
- 58th Audubon Artist, The Salma gundi Club, New York, N.Y.
- Art Exhibition of Japanese Artists, Japanese American Association, New York, N.Y.
- Friends with Yoshio Kono, ABC Gallery, Osaka
- 1st Biennial International Miniature Print Exhibition, New Leaf Editions, Vancouver, Canada

- Alexander Technique, Copenhagen, Denmark
- American Dade Company
- American Express
- American Hospital Supply
- American Medical Association
- American National Bank
- Arcta Publishing
- Arthur Young & Company
- Associated Communications Corporation of Pittsburgh
- AT&T, Chicago
- Atlantic Richfield Company, Los Angeles, CA
- Birmingham Bloomfield Saving, MI
- Birmingham Library, Bloomfield Hills
- Brooklyn College
- Brown Brothers Harriman
- CitiBank, New York, NY
- CitiCorp, New York, NY
- City of Chicago
- Dart — Kraft
- DB-Trade International, (Deutsche Babcock AG)
- Encyclopedia Britannica
- Ex-Cello Corporation
- First Federal of Michigan, Detroit, MI
- First Union National Bank
- The Fred S. James Insurance Company, Chicago, IL
- General Motors
- Georgia Institute of Technology, GA
- Greenwich Public Library, CT
- Harris Bank, Chicago, IL
- IBM, CT
- The IWA Foundation, Czechoslovakia
- Kraft Corporation World Headquarters
- Manhattan Graphic Center
- Manufacture Bank, Detroit, MI
- Mitsubishi, New York, NY
- NCNB Corporate Service, Inc.
- New Haven Paint & Clay Club, CT
- North Carolina Bank
- North Miami General Hospital
- Northern Trust Bank
- Northonbouer Ltd. Esber, England
- Northwestern Memorial Hospital
- Northwestern University
- Norwalk Community-Technical College, Norwalk, CT
- The NYNEX Corporation
- Osaka International Airport, Japan
- Peat Marwick Michell
- Philadelphia National Bank
- The Print Club of Albany, Albany NY
- Prudential Insurance Company
- Quaker Chemical Company
- SAGA Jr. College of Art, Kyoto, Japan
- Sasakawa Peace Foundation USA, Inc., Washington, DC
- Sears Roebuck & Company, Chicago, IL
- Seattle Bank & Trust
- Shearson American Express
- Smith Kline/Beckman, Inc.

Public Collections:

Museums:

- Albright-Knox Museum, Buffalo, NY
- Brooklyn Museum, New York, NY
- Cabo Frio Museum, Rio de Janeiro, Brazil
- Duxbury Art Complex Museum, MA
- Ella Sharp Museum, MI
- Fukuyama Museum, Hiroshima, Japan
- Hiroshima Prefecture Museum of Art, Hiroshima, Japan
- Hofstra Museum, Hempstead, NY
- Housatonic Museum of Art, CT
- Institute, Museum, and Gallery — Bitoa, Republic of Macedonia
- International Centre of Graphic Art, Jublijana/Yugoslavia
- Minnesota Art Museum, MN
- The Museum of International Contemporary Art, Bahia, Brazil
- Museum of Modern Art, Yugoslavia
- Museum of Contemporary Art Skopje, Yugoslavia
- National Museum in Poznan, Poland
- National Museum of Carcow, Poland
- Owensboro Museum of Fine Art, Philadelphia, PA
- Portland Art Museum, OR
- Philadelphia Museum of Art, PA
- Taiwan Museum of Art, Taiwan
- Yamanashi Prefecture Museum of Art, Yamanashi, Japan

Others:

- The Alabama Art League, AL



Gail Flash Back
 疾風 フラッシュ バック
 OSAKA 2000
 野田金属工業 大阪
 NODA Metal Working Industry Co., Osaka

Spencer Corporation
 Standard Federal Savings, Detroit, MI
 Takarazuka University of Art & Design, Japan
 Transco, TX
 University of Chicago
 University of Dallas
 University of Illinois
 University of Michigan
 University of Michigan Hospital
 University of Missouri — Columbia, MO
 USA Today
 Varna, Varna, Bulgaria
 Western Savings Fund, Waco, Texas

NEWSPAPERS/PERIODICALS/CATALOGUES/BOOKS

- 1973 ●Sankei Newspaper, April 8, Exhibition Review, by Toru Takahashi
- 1975 ●"Print Art," No.21, November: Exhibition Review, by Toru Takahashi
 ●The Kyoto Newspaper, May 31, Exhibition Review, by Fujii
- 1976 ●"Print Art," No.25, July, Exhibition Review, by Toru Takahashi
 ●Catalogue, "Art Now," Hyogo Prefectural Museum of Modern Art
 ●"Bijutsu Techo," July, Exhibition Review, Toru Takahashi
- 1977 ●"Bijutsu Techo," June, Exhibition Review, by Toru Takahashi
- 1979 ●"Bijutsu Techo," May, Exhibition Review, by Kazuo Yamawaki
 ●Catalogue, "31st Boston Printmakers National Exhibition," Brockton Art Center, by Gene Baro
- 1980 ●Catalogue, "The Fine Arts Print Works," California State University
- 1981 ●Book Cover, "Statistics: A Tool for the Social Science," Duxbury Press, Ma.
 ●Catalogue, "33rd Boston Printmakers National Exhibition," Fitchburg Art Museum, by Jane Farmer
 ●North Carolina Newsday, November 15, 'Art and Artist' by Michael Kampen
- 1982 ●The New York Times, October 17, 'Flights of Imagination'
 ●Art Speak, May 13, "Learn the City See Its Art", Exhibition Review, by Cecily B. Firestein
 ●Catalogue, "Kew Gallery," by Sharon Flescher Ph. D.
 ●Catalogue, "Art Works '82," Brandeis University, by Riva Samberg
- 1983 ●Catalogue, "8th University of Dallas National Print Invitational," by Juergen Strunk
- 1985 ●The Journal News, November 1, 'Artist's Lecture'
 ●"Viarts, No. 1, Yoh Art Gallery
 ●Book Cover, "Numerical Analysis," by Burden & Faires Prindle, Weber and Schmidt, Ma.
- 1986 ●The Yomiuri Newspaper, June 11, 'Contemporary Japanese Art Created in Other Land in New York', by Shigeo Motoike
 ●The Asahi Newspaper, May 6, "First Print One Man Show at Hometown"
 ●The Yomiuri News Paper, August 18, "Poem of Canvas"
 ●"Hanga Geijutsu," No. 53, Spring, Exhibition Review, by Toru Takahashi
 ●Catalogue, Yoh Art Gallery, by Michel Ponce de Leon and Toru Takahashi
 ●"Hanga Geijutsu," No. 54, Summer, Summer of New York, by Allison Tolman
 ●Catalogue, "Contemporary Japanese Art Created in Other Lands," Gallery International 52, by Kazuko Hillyer
 ●Catalogue, "16th International Watercolor Exhibition," La. Watercolor Society, by John H. Schaeffer
- 1987 ●"Bijutsu Techo," November, Exhibition Review, by Kunie Sugiura
 ●"Contact áU Magazine," Winter/Spring
 ●Catalogue, "National Artworks," AAO Gallery, by Douglas G.Schlz, Albright-Knox Gallery
 ●The New York Yomiuri, September 17, "From The Far East"
 ●"The Creators Harajuku," Vol.3, 'The Creators File' (Poem), by Richard R.Ammijo
 ●"Bijutsu Techo," December, Exhibition Review, by Kunie Sugiura
 ●"Japan Mate," July and August, 'Artist in New York'
 ●"Profile of Contemporary Art," International Art Center of Kyoto, by Arata Tani
- 1988 ●"Provincetown Arts," Annual 1988
 ●Art Speak, November 1, Exhibition Review, by E.C.Lipton
 ●New Jersey Weekend Beacon, June 11, Exhibition Review
 ●Japan Times, August 17, 'Japanese Artists Call New York Home,' by Edward M.Gomez
 ●The New York Nichibei, September 29, by Edward Moran
 ●The Chugoku News Paper, 'Challenge' by Kazuyuki Kawamoto
- 1989 ●Art Speak, September 16, Exhibition Review, by Sean Simon
- 1990 ●Art Speak, September 19, Exhibition Review, by Tony Cavanaugh
 ●"Progression of the Art in New York," by Koji Ichida
 ●Book Cover, "Precalculus," by Jerome E. Kaufmann PWS-Kent
 ●Catalogue, "Ge Exhibition"
 ●New York Nichibei, October 11, 'Masaaki Noda's One Man Show at University Art Gallery'
 ●"Japan New York," "What is happening in New York Art," March and April
 ●"The New York Art Review," by Les Krantz
 ●Book Cover, "A Wave," John Ashbery, Syoshi Yamada
 ●"The Life Creator," No.2
 ●"Japan Overseas Educational Services," April, 'Experience of Art'
 ●Catalogue, "4 New York Artists," (Tentative Title) 'Diverse Notes on-Diversity,' by Donald Kuspit The Contemporary Art Gallery (Ikebukuro Seibu)
- 1991 ●The Chugoku News Paper, February 1, Delta "Masaaki"
 ●RSK Radio, September 16, Talk with Tadataka Takizawa
 ●The Sankei News Paper, October 1, Unique Abstract World in Silk Screen.
 ●The Yomiuri News Paper, October 2, Homecoming Exhibition after Five Years.
 ●The Chugoku News Paper, October 2, Display of Diversity of Contemporary Art.
 ●The Chugoku News Paper, October 3, Activities of Masaaki Noda in New York.
 ●The Chugoku News Paper, October 6, Feel Frankly for Art
 ●The Sanyo News Paper, October 6, Homecoming Exhibition after Five years
 ●The Sankei News Paper, October 23, Display of Fourteen Years Work
 ●The Chugoku News Paper, October 29, Self Opinion Achieved All Art Works
 ●The Niigata News Paper, October 29, Stand Talking
 ●The Chugoku Television, October 29, Painter and Printmaker Masaaki Noda
 ●The Mainichi News Paper, November 1, Embody of Energy and Motion
 ●The Chugoku News Paper, November 19, Donated Print for City
 ●21st Century Prints, December, Print Random, Review, Hiromichi Abukawa
 ●Catalogue, Masaaki Noda The Works in New York 1980-1991, Jane Rubin, Alexandra Munroe, Sumio Kuwabara, Abe Publishing Co.
 ●21st century Prints, January-February, Can We Expect New Era?



Gail Flash Back
 疾風 フラッシュ バック
 OSAKA 2000
 野田金属工業 大阪
 NODA Metal Working Industry Co., Osaka

- New York Nichibei, January 16, Go Home in Glory
- The New York Yomiuri, January 16, Seven Japanese Artists
- OCS News, January 24, Seven Contemporary Japanese Artists
- New York Nichibei, January 30, Artist with Environment
- Parkway, February, Artist from New York, Etsuko Kawamoto
- The Kyoto News Paper, February 30, Japanese, Korean, Chinese Exhibition in New York
- Nikkei Art, March, Topics of Oversea
- The Chugoku News Paper, November 23, One Person Show in New York
- OCS News, November 27, Opening of Three Asian Artist Exhibition
- The Tokyo News Paper, December 3, Opening Two Exhibitions in New York
- Book Cover, Rape Blossoms and Cherry Blossoms, Hiroo Sakata Kohadan-Sha
- Essay, One Hundred American Document Essay, Masaaki Noda, UJP
- Catalogue, Masaaki Noda's Light Gestures, By Donald Kuspit SPF USA Gallery & Library
- Book Cover, Cost Accounting, Hirsch Louderback, South Western Publishing Co.,
- Essay, News from New York by Masaaki Noda Through 1992 of February to 1995 of February, Twenty Nine Times, Introduce Major American Art Scene and Interview to Major Artists and Curators
- 1993 ●Geijutsu Shincho, February, Japanese, Korean, Chinese Artist Exhibition who Live in New, York, Tatsuo Kondo
- Bijutsu Techo, March, Visions in Between, Kunie Sugiura
- Inside/Outside Japan, April, Expatriate Art, Robert Chiappeta
- The Asahi News Paper, May 7, Artist Masaaki Noda, Nobuo Tominaga
- The Chugoku News Paper, May 8, Pre-Asia Art Exhibition from Eleventh
- The Chugoku News Paper, May 12, Nineteenth Painting of Eastern and Western Culture
- Nihon Television, May 15, World of Masaaki Noda, Flight to Freedom
- The Chugoku News Paper, May 17, Four Asian Artist Traveling Exhibition for Their Countries
- The Chugoku News Paper, August 12, Printmaker Masaaki Noda's world and His Personal Background
- Hiroshima Television, August 12, Masaaki Noda New York Art Scene, Flight to Limitlessness
- Wolgon Misool Art Magazine, September, Visions in Between, Korea
- Hsiung Shih Art, September, Asian Artists, By Eleanore Heartney, Taiwan
- Book cover, Ingelheimer No.22 of January, No.23 of April, No.24 of July, No.25 of October, Ingelheimer
- Book cover, Introduction to Abstract Algebra, W. Keith Nicholson, PWS Kent
- Book Cover, A computer Science Using, Eggen Eggen, PWS
- 1994 ●Art Matter, January, Small Works at Gallery 500, William Southwest
- The National Museum of Art Osaka, February, Experience in New York
- The Chunichi News Paper, May 12, Correspondence from New York, Hiroshi Aoki
- Art News, September, International New York, by Masaaki Noda
- Art News, October, Masaaki Noda's Exhibition in France, Robert S, Bianchi
- Art News, October, Japanese Contemporary Art for World, by Masaaki Noda
- P.T. Efstathiou Fine Art, October, Art-Phitheater, Robert S. Bianchi
- Haenah-Kent gallery, December, California meets New York, Eleanor Heartney
- Catalogue, Visions in Between, Shiou Ping Liao, Eleanor Heartney, Taipei Gallery
- 1995 ●Catalogue, Abstract Expression 3X, Edition Les Cyclades, Robert S. Bianchi
- The Sankei News Paper, February 19, Charity show for Earthquake
- The Tokyo News Paper, February 21, Charity show in Gallery
- Zig Z'art Magazine, June, Japanese artist, Fredric Altmann
- The Izu News Paper, August 4, Seriousness from New York's Prints
- The Chugoku News Paper, August 23, First One Person Show in Europe
- SAGA Letter, Spring-Summer, East West Print Exchange Exhibition, Gary Shaffer
- John Callahan Gallery, Reality Abstracted, John Callahan
- New York Art and Galleries, Japanese Artist in New York, Koji Ichida, Doyou Publishing Co.,
- Catalogue-7th Annual Fukuyama art Project-Play-Hirofumi Akagi, Futoshi Ishii
- Catalogue, Two Point of View '95, Osaka University of Arts, Toru Takahashi
- Catalogue, Masaaki Noda, Twisted Circulation, Galerie Les Cyclades, Fredric Altmann, Andre Verdet, Robert S. Bianchi
- 1996 ●The Yomiuri America, November 1, 26 Japanese Artist exhibition
- Parkway, October-December, Friends Forever, Etsuko Kawamoto
- Book Cover, An Introduction to Unix with X and the Internet, Paul Wang, PWS
- Book Cover, Commerce and Industry Fukuyama, Katsunobu Omae, Commerce and Industry Assembly Hall
- 1997 ●The Chugoku News Paper, April 17, Starting Point from Admiration of Sky, New York Kyodo
- The Shimotsuke News Paper, April 20, Image of Flight, New York Kyodo
- The Kyoto News Paper, April 22, Image of Flight, New York Kyodo
- The Shinano Mainichi News Paper, April 25, Stained-Glass of Image of Image of Flight, New York Kyodo
- The Tokyo News Paper, April 20, Friend Came from Long Way, Tsutomu Tajima
- The Kyoto News Paper, June 18, Opening of Keihan Uji Building
- RCC Radio, Stained-Glass, Lin Lin Report
- Video, August 4, "Perpetual Flight", An Unveiling Ceremony of Stained-Glass, Hiroshima Television
- The Kyoto News Paper, August 7, Completion of Keihan Uji Building
- The Chugoku News Paper, August, Completion of Stained Glass, Seishi Hayashi
- The Asahi News paper, August 19, Collaboration with other People
- The Kyoto News Paper, August 19, Expectation of Uji's Sightseeing, Kazuaki Nita
- TBS Television, August 15, Introduce Stained-Glass by Ken Ogata
- The Graph Keihan, Autumn, Opening of Keihan Uji Building
- Gekkan Bijutsu, November, Uji Stained-Glass Designed by Masaaki Noda
- Catalogue, International Biennial of Small Format Print Leskovic '97, Creative Parallels, Srden Markovic
- 1998 ●The Asahi News Paper, January 1, Color Front Page, Beyond Time and Light, Masaaki Noda
- SAGA letter, Spring one Person Experience, Susan E. Carter Carter
- Catalogue, Artist of Graphics Art Council of New York, Krasdale Gallery
- Catalogue, Brilliancy of Bingo, Fukuyama Museum of Art, Futoshi Ishii
- SAGA Letter, Suymmer, A New Stained-Glass Project by Masaaki Noda is Installed in Kyoto, Yasuko Nagasawa
- 1999 ●The Chugoku News Paper, April 27, Flutter Life Object in Hometown
- Parkway, July-September, Monument for the Hometown, Etsuko Kawamoto
- OCS News July 18, Paintings and Sculptures



PERPETUAL FLIGHT II BEYOND TIME AND SPACE
 OSAKA 2000
 野田金属工業 大阪
 NODA Metal Working Industry Co. Osaka

2000

- The Yomiuri America, July 2, Painting Express Limitlessness Space
- Catalogue, Proof of 20th Century, Osaka University of Arts
- Catalogue, 30/30, Thirty Works by Art Students League of New York Alumni 1965-1995, Art Students League
- Catalogue, Sotheby's, Allan Ginseng and Friends
- Catalogue. 57 Annual Exhibition Audubon Artist, Inc.
- 70th Art Gallery. June. Painting and Sculpture. Robert. S. Bianchi
- Hanga Geijutsu. No.107. Masaaki Noda Exhibition P.162. Back Cove
- Catalogue Masaaki Noda, Breeze from New York, 1991-2000 Robert S. Bianchi Published by P.T. Efstathiou Fine Art in Association with Zort Production
- The Mainichi News Paper, May 9, Monument "Perpetual Flight II Beyond Time and Space"
- The Sanyo News paper, May 18, Unlimited Expression of Space
- The Sankei News Paper. May 19, Installation of Mr. Noda's Work
- The Chugoku News Paper. May 20, Wing for Home Town
- The Yomiuri News Paper. May 20, Fly to Future
- The Shinichi Topics May 23, Monument for Home Town Entrance
- The Sanyo News Paper. May 25, 54 Works of Sculptures and Watercolor
- The chugoku News Paper. May 26, Painted Life Force
- The Asahi News Paper. May 26, Expression of Life Stir by painting and Sculpture
- The Chugoku News Paper. May 27, Floating Stir, depth and Space
- The Mainichi News Paper. May 28, Expression of Force of Life
- The Shinichi News. June 5, Completion of Monument
- 21 Prints, Summer, Controlling the Feeling of Floating in the Infinite Space and Waking up to a Realization of "Life" in Its Whirpool by Tetsuro Murobushi
- Hanga Geijutsu No.108, Own Kampas for Art. P.82-89. Masaaki Noda, Tatsuo Matsuyama
- RCC Television. June 1, News Bridge, Masaaki Noda Exhibition
- The Chugoku News Paper. June 15, Art for Public, Makoto chosokabe
- Tempyo 004, Summer. Life Force Stir in Unlimited space P.93. 94. Makoto chosokabe
- Park Way, July~Sept, From the Editor. Ekuko kawamoto
- New York of 360°, Gen Hikage, Published Gallery station
- RCC Television. September 14, Masaaki Noda Special program Project of Home Town
- Bingo Bijutsu. No.13 Autumn, Mr. Masaaki Noda P.4-9 Completed Shinichi Monument P.16-17

撮影者

D. ジェイムス デー

No.3/No.4/No.5/No.46/No.47/No.48/No.49/No.50/No.51/No.52/No.53/No.54/
No.55/No.56/No.57/No.58/No.59/No.60/No.61/No.62/No.63/No.64/No.65/
No.66/No.67/No.68/No.69/No.70/No.71/No.72/No.73/No.74/No.75/No.76/
No.77/No.78/No.79/No.80/No.81/
P.95

成瀬 友彦

No.1/No.2/No.6/No.7/No.9/No.10/No.11/No.12/No.13/No.14/No.15/No.16/
No.17/No.18/No.19/No.20/No.21/No.22/No.23/No.24/No.25/No.26/No.27/
No.28/No.29/No.30/No.31/No.32/No.33/No.34/No.35/No.36/No.37/No.38/
No.39/No.40/No.41/No.42/No.43/No.44/No.45

船田 泉

P.74

アート印刷株式会社

P.22/P.23

Photographers:

D. James Dee

No.3/No.4/No.5/No.46/No.47/No.48/No.49/No.50/No.51/No.52/No.53/No.54/
No.55/No.56/No.57/No.58/No.59/No.60/No.61/No.62/No.63/No.64/No.65/
No.66/No.67/No.68/No.69/No.70/No.71/No.72/No.73/No.74/No.75/No.76/
No.77/No.78/No.79/No.80/No.81/
P.95

Tomohiko Naruse

No.1/No.2/No.6/No.7/No.9/No.10/No.11/No.12/No.13/No.14/No.15/No.16/
No.17/No.18/No.19/No.20/No.21/No.22/No.23/No.24/No.25/No.26/No.27/
No.28/No.29/No.30/No.31/No.32/No.33/No.34/No.35/No.36/No.37/No.38/
No.39/No.40/No.41/No.42/No.43/No.44/No.45

Izumi Funada

P.74

Art Printing Co.,Ltd.

P.22/P.23

瞬間の移動-52
残光
Shift of Moment-52
After Glow
Water Color
1999
77.5×78.5cm
31×31½"



協力 ロバート・スチーブン・ピアンキ
タキス パン エフスタフ
アレン D. シュガーマン
ヴァイオラ ドラス
星田豊司
藤原 平
西田亀鉄工所 長谷川康男
野田金属工業株式会社 野田邦雄、野田昌宏、朝日識多
中尾一郎
三島産業株式会社 三島康義、谷口桂太郎、延谷建一
新市ライオンズクラブ
中山憲治
高橋香司
平木恵美子
佐藤絃彰
川本一之 悦子 啓子
成瀬友彦
細川俊介

執筆者 ロバート・スチーブン・ピアンキ
ヴァイオラ・ドラス
ドナルド・カスピット

翻訳 佐藤絃彰

Cooperators

Robert Steven Bianchi
Takis Pan Efstathiou
Alan D. Sugarman
Viola Drath
Toyoji Hoshida
Taira Fujiwara
Nishidakame Co., Yasuo Hasegawa
Noda Metal Working Industry Co., Konio Noda, Masahiro Noda, Orita Asahi
Ichiro Nakao
Mishima Sangyo Co.,Ltd, Yasuyoshi Mishima, Keitaro Taniguchi, Kenichi Nobutani
Shinichi Lions Club
Kenji Nakayama
Koji takahashi
Emiko Hiraki
Hiroaki Sato
Kazuyuki, Etsuko, Keiko Kawamoto
Tomohiko Naruse
Shunsuke Hosokawa

Text by: Robert Steven Bianchi
Viola Drath
Donald Kuspit

Translated by:
Hiroaki Sato

Masaaki Noda

Breeze from New York 2001
ニューヨークの息吹き 2001

発行 フライングパンセ株式会社
発売 アートコム株式会社
アートコム ギャラリー
〒530-0047 大阪市北区西天満2丁目6番8号、堂島ビルディング1階
TEL. 06-6312-5555

Publisher: Flying Pensée Co., Ltd.
Art Com Co.,ltd.
Art Com Gallery
1F Dojima Building 2-6-8- Nishitenma Kita-ku Osaka 530-0047 JAPAN
Tel 06-6312-5555

© 2001 Masaaki Noda

